

高 畠 町

第3次

# 環境基本計画

2023(令和5)年度～2030(令和12)年度



## はじめに

高畠町は、奥羽の美しい山並みに囲まれ、肥沃な田園地帯が開け、四季折々の多彩な風景が展開される豊かな自然環境に恵まれています。

この恵まれた環境を未来につないでいくため、「高畠町環境基本計画」を策定し、町民、事業者、町の協働により取組みを進めてきました。

しかし、近年、地球温暖化が原因とみられる猛暑や豪雨などの異常気象の増加や、プラスチックごみによる海洋汚染、生物多様性の損失など、地球規模での環境問題が深刻化しています。

こうしたなか、本町においては、2020年11月に、2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指す「高畠町ゼロカーボンシティ宣言」を表明しました。このような近年の動きや課題に対応するため、従来の取組みを継承しつつ、今後の環境施策の基本的な方向性を示す「第3次高畠町環境基本計画」を策定しました。

本計画を、町民、事業者、町が連携・協力して推進し、多岐にわたる環境課題の解決を図っていきたいと考えておりますので、皆様方の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。結びに、本計画の策定に関わっていただきました、すべての方々に心から感謝申し上げます。

2023（令和5）年3月



高畠町長 高梨 忠博

## 第1章 高島町のこれからを考える

### 01 第3次高島町環境基本計画

なぜ計画をつくったか	6
この計画はどんな計画なのか	6
計画の位置付けと期間	12

### 02 高島町をとりまく課題と希望

【課題1】社会情勢がさらに大きく変化	13
【課題2】地球温暖化が急速に進行中	14
【課題3】自然環境の保全にかげり	15
【希望1】循環型の暮らしへの兆し	16
【希望2】エコな暮らしはあたりまえ	16

## 第2章 高島町の環境の将来像

### 01 将来像を設定する時に大切にしたい考え方

一人ひとりの「生き方」	18
未来から今を「逆算する」	18
自分やまちの未来を考えるための「対話*」	19

### 02 目指す将来像

### 03 将来像を実現するための行動方針

## 第3章 高島町の環境の未来を実現するために

### 01 計画の体系

### 02 具体的な取組み

ゼロカーボンを実現する	26
捨てるものを減らし・活かす	28

---

たかはたの自然環境を守り・活かす . . . . . 30

学び、行動する人を育てる . . . . . 32

楽しく行動するためのしくみをつくる . . . . . 34

**03 町民・事業者が取り組めること**

町民のみなさんができること . . . . . 36

事業者のみなさんができること . . . . . 38

**04 計画を実現するための進め方**

小さく楽しくあたりまえな未来をつくる対話の場「話す・考える」 . . . 41

めぐりめぐりしくみをつくる場づくり「試す・ふりかえる・しくみにする」 . . . 42

目指せ!あたりまえにめぐる環境「後押しする」 . . . . . 43

**第4章 計画の推進体制と進行管理**

**01 推進体制**

パートナーシップによる推進体制 . . . . . 45

庁内の推進体制 . . . . . 45

**02 進行管理 . . . . . 45**

**参考資料**

高島町環境基本計画策定に向けたアンケート調査(町民) . . . . . 46

計画策定の体制及び経過 . . . . . 53

索引 . . . . . 55



# 第1章

高畠町のこれからを  
考える

# 01 第3次高畠町環境基本計画

## ① なぜ計画をつくったか

2022年夏、記録的大雨によって置賜地方で最上川が氾濫し、多くの地域で避難を余儀なくされました。その2年前にも豪雨による被害があったばかりでした。高畠町でも一部地域で床上浸水や農産物等への被害が発生しました。このような災害は将来も起こらないとは限らない状況です。

この10年のうちに、地球温暖化の進行による気候変動やその影響による自然災害は増加し深刻化しています。加えてプラスチックごみによる海洋汚染やエネルギーの供給問題など、私たちを取り巻く環境問題はますます多様化しています。

これらの環境問題は、私たちのライフスタイルに起因するものがほとんどであり、今後どのような環境を目指していくのか、そのためには何をすべきかを私たち一人ひとりが考え、実践していくことが欠かせません。

これまで高畠町では、平成14年に高畠町環境基本条例に基づき、環境施策を総合的に計画的に進めることを目的とした第1次高畠町環境基本計画を策定。その後、平成25年3月に第2次高畠町環境基本計画（以下「現計画」という。）を策定し、町民のみなさんと共に環境の取組みを進めてきました。

現計画の計画期間が令和4年度をもって終了することから、住民と行政が共に環境問題を学びながら高畠町の目指す環境像を考え、それらを実現するための具体的な取組みを検討するとともに、第6次高畠町総合計画に掲げる「今も未来も一人ひとりが「しあわせ」を感じられる持続可能なまち」の実現を目指し、第3次高畠町環境基本計画（以下「本計画」という。）を策定しました。

## ② この計画はどんな計画なのか

本計画は、高畠町の環境に関する最も基本となる計画です。目指す将来の環境のすがたをどのように実現していくのか、そのための具体的な取組みについて書いています。

本計画をつくるにあたっては、住民のみなさんを対象にしたエコカフェ・リサーチ（ヒアリング）や、若者を中心とした町民ワークショップ「みんなでエコな未来をつくるカフェ」（以下「エコカフェ」という。）で将来像を語り合い、高畠町環境にやさしいまちづくり会議（以下「環境会議」という。）でも検討を重ねてきました。

エコカフェでは、高畠町に暮らすみなさんの生き方や日々感じていること、これからの環境をつくるためのアイデアや想いを話し合いました。ここで話し合われた意見や想いを整理して計画を策定しました。

## エコカフェ・リサーチ (ヒアリング)

p.08  
|  
p.09

自分たちの生き方、将来住みたい町の姿、  
あったらいいと思うことなどを直接聞く場。



学生

農家

会社員

その他

全 14 名

ヒアリング結果をもとに話し合いの場をデザイン

## エコカフェ (町民ワークショップ)

p.09  
|  
p.11

自分たちの生き方、将来住みたい町の姿、  
あったらいいと思うことなどを話し合う場。

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

エコカフェ等の結果をもとに計画を策定する場をデザイン

## 環境にやさしいまちづくり会議

エコカフェなどの意見をもとに、将来住みたい町の姿、  
あったらいいと思うことなどを話し合い、計画案を検討する場。

第1回

第2回

第3回

第4回

## エコカフェ・リサーチ (ヒアリング)

「町民の声から大切な想いを集める。」「町の環境の未来と一緒に考える仲間を集める。」この2つを目的に、様々な年代の方々にヒアリングを行い、町の好きな場所、気候変動を感じる時、購入するときに気にすること、環境面で町がこうなったらいいなと思うことなどについてお話を聞きました。



日時：令和4年10月5日～7日  
平均年齢：29歳（20～60代）

人数：14名（男性10名、女性4名）  
職業：学生、会社員、農業ほか

エコカフェ・リサーチの結果から、多くの住民が環境問題を自分のことと捉え、すでに環境に配慮した暮らしを取り入れ、特に若い世代はその暮らし方を楽むのがあたりまえになっていることがわかりました。この結果をもとに、すでに先進的に暮らしている若い世代を中心に話し合いの場をもち、今の生活を基準にして10年後の未来を想像できるようデザインしました。

### ヒアリング項目

町の一番好きな季節は？

町の一番好きな食べ物は？

暮らしていて「これは気候変動の影響だな」と感じることは？

もったいないと感じることは？

何かを購入するときに気にすることは？

環境面において、町がこうなったらいいなと思うことは？

## ヒアリング結果の抜粋

「買わない」生活が増えてきた

「買う」以外の選択肢も増えてきた

「捨てずに売る」生活も増えてきた

使い回す／循環するほうが使い捨てより良い

体に良いもの、多少高くても地元のものを選んで（中には全部ネットで買う人も）

気候変動は肌で感じる

農業の後継者不足は深刻

町民が環境に対して意識、行動するか課題

## エコカフェの案内

(町民ワークショップ)

子どもの頃から環境問題を学び、環境に配慮した行動があたりまえになっている若い世代の方とこれからの未来について話し合うために、無作為に選んだ10代、20代の方に手紙を送付して参加を呼びかけました。

こんにちは、高島町役場です。  
私たちがこんなお手紙を送るのは初めてですから、怪しまれたかもしれません。でも、本物ですからご安心ください。

そろそろ稲刈りが終わり、柿の実がオレンジになって来る頃ですね。そのうち木々から葉が落ちて、雪開きの頃合いを見計らっていると、初雪のニュースが各地から聞こえてきます。今年も去年よりも降るなあ、明日は早く起きて雪かきしないと、と長い冬を過ごします。雪が解けると山菜を見つけた連人たちの出番です。こごみやわらびやうるいが食卓にのぼったり、また来る冬のために日干ししたり、忙しくなっています。

桜のつぼみが膨らみ始めたから、あつという間に見頃を迎えて、家族や友達とお花見に行く日を相談します。五月になると一齐に田植えが始まり、一面鏡張りになった田んぼには山や森が映って、街中が緑色に模様替えます。トマトやキュウリ、茄子、枝豆など夏野菜がたくさん実り、新鮮なまま食べたり、加工したり、暑い暑い夏が過ぎて行きます。

高島町のフルーツが実をつけて明るい色が増えてくると、田んぼが黄金色に変わっています。そうしてまた稲刈りの時期が来ます。

こうした循環が、これからもずっと続くだろうなと思いませんか？でも、自分たちでなんとかしないと循環しないのです。だって、毎年自然災害がひどくなったり、燃料費が高騰したり、着実にこの環境は変わっているから。だから、すぐにでもどうしたらいいか、できることはないか考えて実行しないといけないんです。今すぐに。

この手紙は、町の若い世代のみなさんと一緒に環境と未来について考えたくて送りました。これから環境と未来について話し合い、勉強する機会を持ちます。今も高島町にお住まいですか？学校帰りや仕事帰りなどに、ぜひ来てくれませんか。もし町にお住まいじゃなくてもオンラインでも開催する予定なので、参加してもらえると嬉しいです。

最後まで読んでもらい、ありがとうございます。  
あなたが来て、一緒に未来を考えてくれるのをお待ちしております。

みんなでエコな未来をつくるカフェ開催のご案内  
第1回 10月26日(水) 19時〜21時  
第2回 11月13日(日) 13時〜17時  
第3回 11月22日(火) 19時〜21時  
第4回 12月14日(水) 19時〜21時  
第5回 2月を予定

場所 糠野目生涯学習館(全部の回)

お問い合わせ  
高島町役場生活環境課  
電話：0238-52-1215



エコカフェの案内状

## エコカフェ (町民ワークショップ)

町民のみなさんと一緒に話し合ったり、学んだりしながら、本計画のビジョンやアイデアを考えていくワークショップでは、気軽に参加できるよう、カフェのような雰囲気を大切にしながら進めました。

### 第1回 スタート!



**10月26日：19：00～21：00**

エコカフェ・リサーチでのヒアリングの結果共有や、「なぜ住民参加型で計画を策定していくのか」、また「経済」を視点としたレクチャーを通して、環境についての考えを深めていきました。

### 第2回 面白いローカルの取り組みを見に行こう



**11月13日：10：10～13：20**

米沢市の「はまだ牧場」さんと、そこから排出される畜産廃棄物などを原料にバイオマス発電をしている施設「リアクト米沢」さんへ視察へ伺いました。後半は、視察の感想を共有しました。

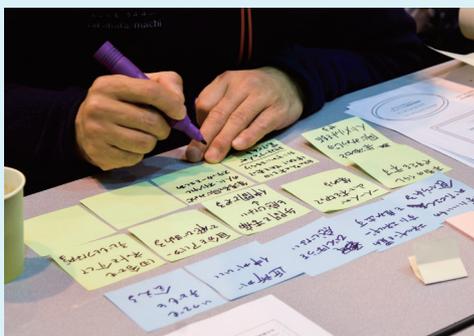
### 第3回 高畠の環境の未来を言葉にしよう



**11月22日：19：00～21：00**

「こうなったらいい!」という未来像を、雑誌やチラシを切り抜いてイメージコラージュとして表現しました。また、未来を連想するための「言葉カード」や自分で考えた言葉を使って、町の環境の未来を言葉でも表現しました。

## 第4回 未来を実現するアイデアを考えよう



12月14日：19：00～21：00

前回描いた「町の環境の未来」を実現するためのアイデアを発想しました。より良いアイデアを生み出すために、“高島でするなら”“自分がやるなら”という視点を大切に、理想とする未来から逆算して考える「バックキャストिंग」の思考法を用いて企画につながるアイデアを出しました。

## 第5回 高島町の環境の未来を決めるぞ！（ビジョン策定編）



1月22日：13：30～16：30

「町の環境の未来」が実現した未来の姿を言葉で表し、計画の将来像をつくるため、言葉にまとめる作業を行いました。想像力を働かせて作業できるよう、ゲームをしたり、高島にある自然界のものになりきったり、楽しく未来を表す言葉を考えました。

## 第6回 アイデアを企画にしよう



3月18日：13：30～15：30

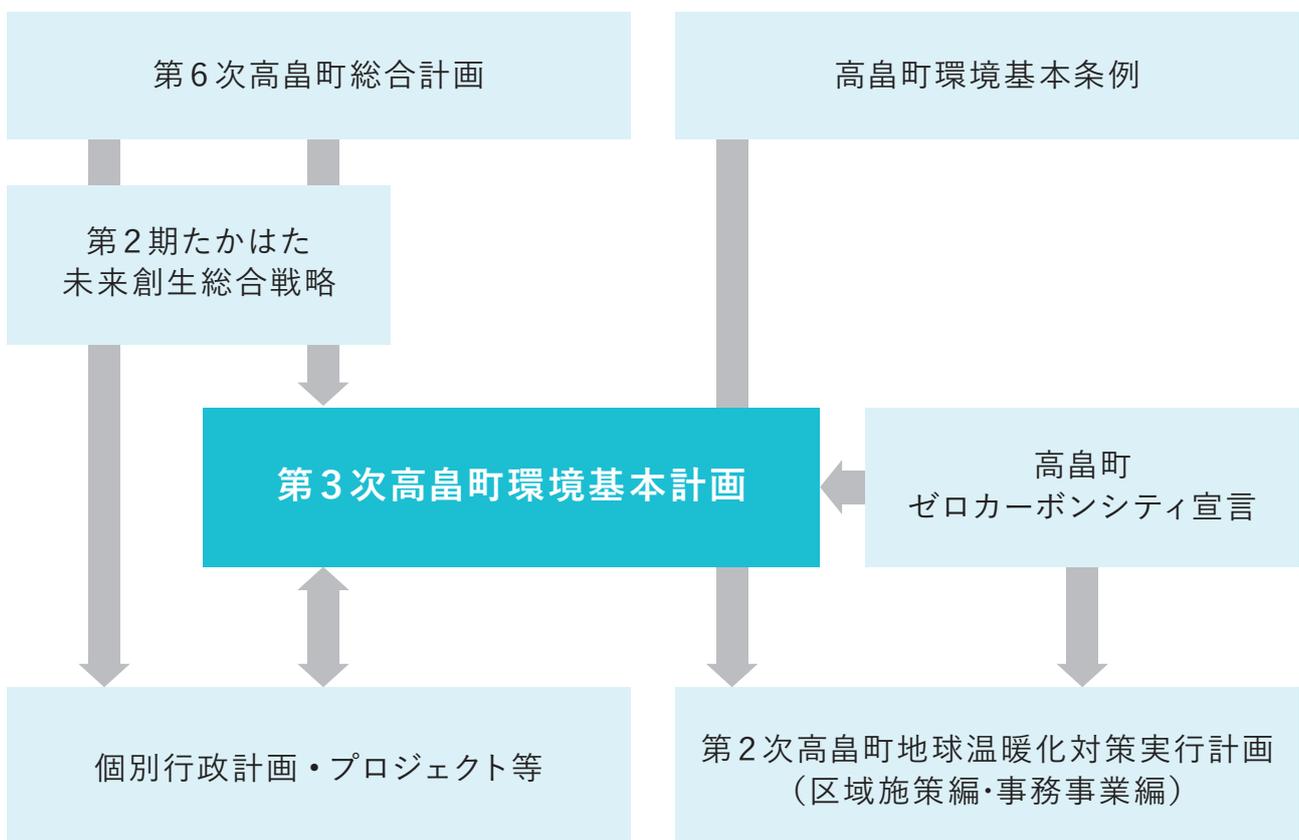
計画書の進捗共有と、これまで考えてきた理想の高島町の環境の未来を実現するアイデアをさらに深掘りし、実行していくための企画にしていくワークを行いました。

### ③ 計画の位置付けと期間

本計画は、高島町環境基本条例に基づき、まちづくりの指針である「高島町総合計画」が目指す目標を環境面から実現するための計画です。この計画は、環境の保全及び創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進する基本的な計画として、長期的な目標や施策の方向を示すものであり、具体的な施策や事業については、関連する個別計画で推進を図っていくこととします。

本計画の期間は、2023（令和5）年度から2030（令和12）年度までの8年間とします。また、2027（令和9）年度を中間目標年度とします。

#### 本計画の位置付け



# 02 高畠町をとりまく課題と希望

高畠町をとりまく現状と将来を考えると、課題もありますが希望も見えてきました。課題や現状をしっかりと受け止めた上で、希望を持って将来を実現していく土壌を築いていく必要があります。

## ①【課題1】社会情勢がさらに大きく変化

人口減少、少子高齢化の進行、急速に進む地方からの人口流出は、経済規模の縮小や労働力不足はもちろん、地域コミュニティの弱体化による環境保全活動を含む地域の取組み全般に影響を与えています。

一方、コロナ危機から社会や経済を回復させる対策として、環境を重視した経済復興策「グリーンリカバリー\*（緑の復興）」の考えが提唱されています。

これから持続可能な社会で暮らすためには、私たち一人ひとりがライフスタイルや適切な選択について考えていくことが求められています。

## ②【課題2】地球温暖化が急速に進行中

近年、世界各地では地球温暖化が原因とみられる異常気象による災害が多発しており、この高島の地でも日々の生活を脅かす影響が出始めています。このような状況は、私たち人間を含めた地球上の動植物の生存基盤を揺るがす「生存危機」とも言われ、脱炭素社会の実現が喫緊の課題となっています。

高島町は、自然の恵みを将来にわたって享受でき、安心して住み続けられる「まほろばの里」を未来につないでいくため、2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指し、取り組みを進めることを宣言しています。

### 高島町ゼロカーボンシティ宣言

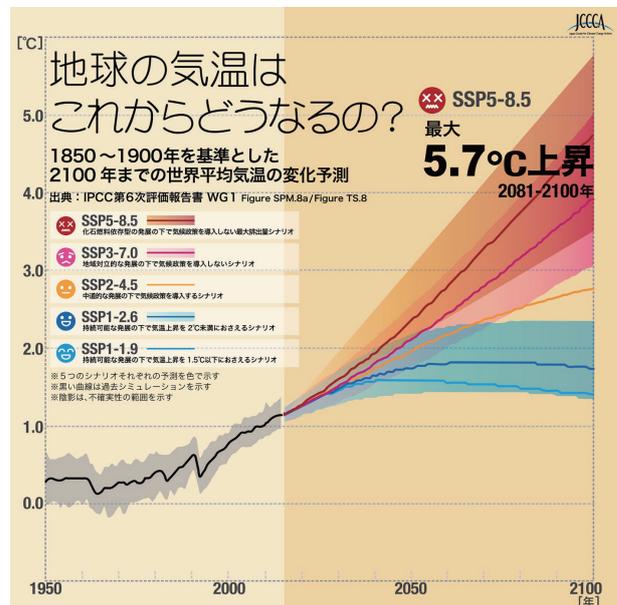
高島町の美しい自然は、縄文草創期から人々が住み、守り育ててきた私たちの大切な宝です。すべての命のつながりに、美しい風景と豊穡の里たかたは支えられてきました。

しかしながら、近年、世界各地では地球温暖化が原因とみられる異常気象による災害が多発しており、この高島の地でも日々の生活を脅かす影響が出始めています。

2015年に合意されたパリ協定では、「産業革命からの平均気温上昇の幅を2℃未満とし、1.5℃に抑えるよう努力する」との目標が国際的に広く共有されました。その後、2018年に公表されたIPCC（国連の気候変動に関する政府間パネル）の特別報告書では、「気温上昇を2℃よりリスクの低い1.5℃に抑えるためには、2050年までに二酸化炭素の実質排出量をゼロにすることが必要」と示されています。

高島町は、自然の恵みを将来にわたって享受でき、安心して住み続けられる「まほろばの里」を未来につないでいくため、2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指し、取り組みを進めることをここに宣言します。

令和2年11月2日  
高島町長



1850年～1900年を基準とした

2100年までの世界平均気温の変化予測

出典:全国地球温暖化防止活動推進センターウェブサイト

### 3 【課題3】 自然環境の保全にかげり

私たちは、美しい山に囲まれた実り豊かなまほろばの里を、普段の暮らしの中ではあたりまえに感じています。そのあたりまえは、私たち自身で守らなければ失われてしまうものです。高畠町は山や農地などの保全によって良い環境が保たれ、多様な生物の生息・生育地となってきました。この環境を維持するには、様々な人が関わり、次の世代に引き継いでいくことが必要です。

しかし、農林業の後継者不足などにより、手入れの行き届かない自然環境が増加し、野生動物が人家近くに出没するなど、農作物被害や生活被害への不安も高まっています。また、森林や農地、河川などが本来有している多面的機能の低下も心配されています。

#### ◎農家数・農家人口・農業従事者数

区分		平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
農 家 数	総農家数	2,316	2,081	1,933	1,705	1,493	1,210
	自給的農家数	-	301	380	374	365	307
	販売農家数	-	1,780	1,553	1,331	1,128	903
戸	専業農家	193	182	210	270	311	-
	第1種兼業農家	819	627	566	389	275	-
	第2種兼業農家	1,304	971	777	672	542	-
農業従事者数 (人)		6,169	5,301	4,328	3,700	2,938	1,519
農家人口 (人)		11,472	10,048	7,280	-	-	-

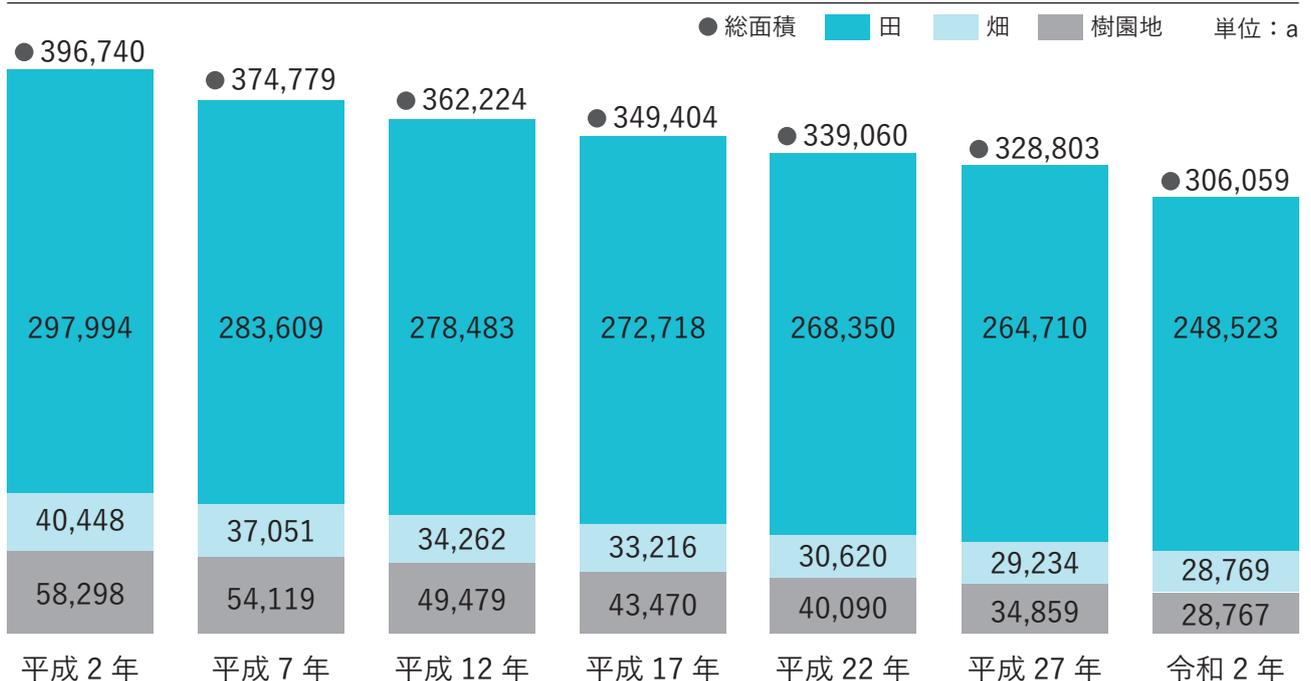
\* 総農家数は、平成12年から自給的農家数と販売農家数に分けられた。

(農林業センサス)

\* 農業従事者数は、平成12年から27年までは販売農家数の数値。令和2年からは基幹的農業従事者のみの数値

#### 経営耕地面積の推移

(農林業センサス)



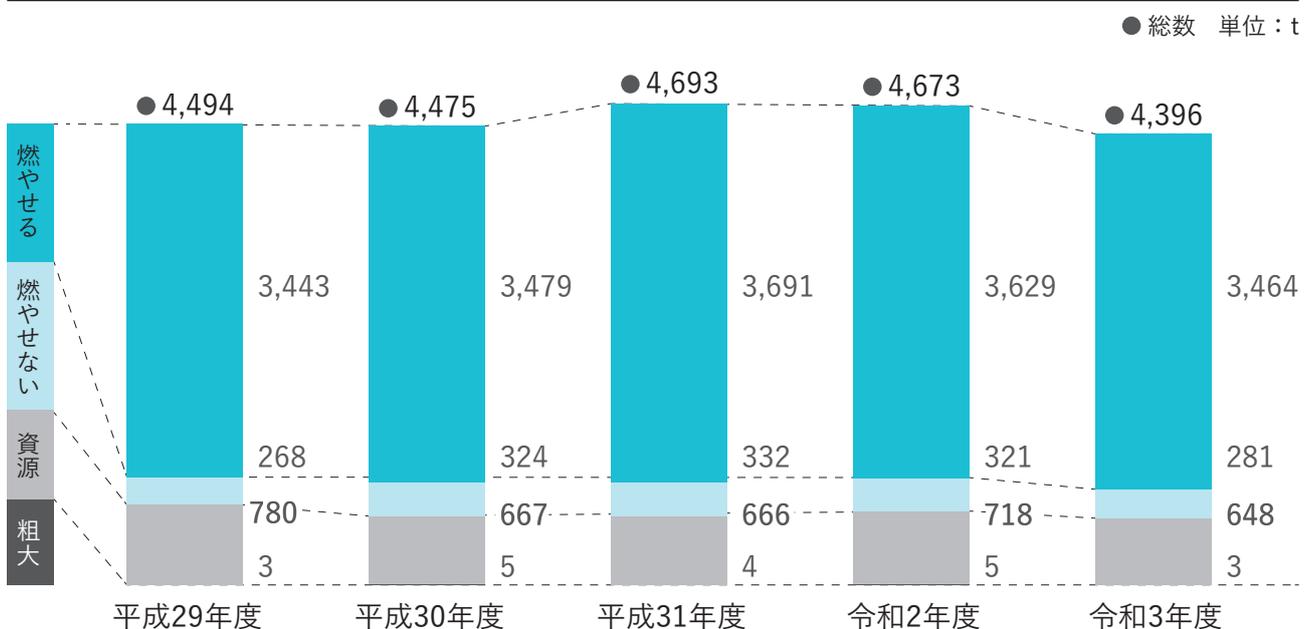
## ④【希望1】循環型の暮らしへの兆し

大量生産、大量消費、大量廃棄の経済活動は、資源の枯渇、生物多様性の破壊など、様々な問題を引き起こしています。これまでの生産から廃棄といった経済活動から、持続可能な資源を循環するしくみへの転換を目指す動きが、世界中で見られています。高島町でもこうした傾向が見られてきています。

高島町では、これまで、町民や事業者等との連携により、廃棄物の排出抑制や、分別によるごみの減量化や資源化、適正処理を進めてきました。今後は、捨てるものを活かし資源を循環させる取組みを更に加速化させる必要があります。

### 生活系ごみ処理量の推移

出典：一般廃棄物処理事業実態調査



## ⑤【希望2】エコな暮らしはあたりまえ

若い世代は特に、生まれたときから「ごみは分別する」などの環境に配慮した暮らし方があたりまえになっています。またモノは極力買わず、捨てるときは売ったり、あげたり、再利用したりと暮らしを楽しんでいます。経済的な成長が緩やかになったことも影響していると思いますが、こうした考え方を持つ人が増えていき一緒に考えて実践していくことで、環境に配慮した暮らしを選択しやすい町になっていくのではないかと思います。

# 第2章

## 高畠町の環境の将来像

# 01 将来像を設定する時に大切にしたい考え方

## ① 一人ひとりの「生き方」

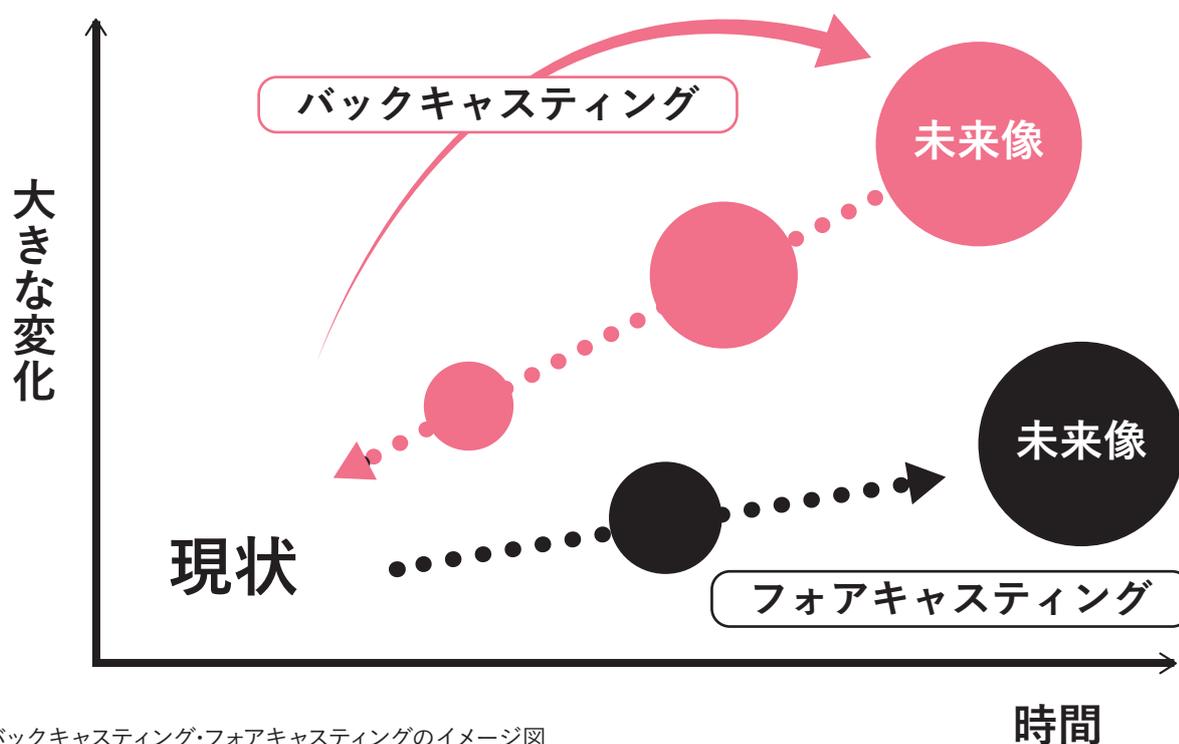
住民一人ひとりの人生が集まって、高畠町がつくられていきます。「どんな人生を送りたいか、どんな環境、風景の中で生きていきたいか。」それぞれの生き方なくして、まちの未来はありません。だから、住民の「生き方」を大切にしました。

## ② 自分やまちの未来を考えるための「対話\*」

計画をつくるときに話を聞かせてもらった多くの町民が「新品じゃなくて中古品」「リサイクルが楽しい」「モノはもたないで借りる・サブスク\*」とすでに環境に配慮した生活を送っていました。いろんな考えや趣向をもつ様々な人と対話を重ね、新たな発見や違う意見との出会いを経て、自分やまちの未来を考えていきました。

### ③ 未来から今を「逆算する」

できるかできないかではなくて、どういう未来がいいかと遠くの未来を野心的に想像して、そこから逆算して今からどういう行動をとるべきか、と考えることを「バックキャストिंग」と言います。今やっていることが自分たちの希望する未来につながることをわかれば、理想の未来は意外とすぐに訪れます。



バックキャストिंग・フォアキャストिंगのイメージ図

# 02 目指す将来像

## 小さく 楽しく あたりまえ

環境問題は、私たちみんなの生き方の問題だから、

町民のみなさんと一緒に「こうなったらいい!」という高畠町の未来を考えました。

自然と共生しながら、持続可能な高畠町を未来に引き継いでいくために、

町民の誰もが「小さく 楽しく あたりまえ」に環境にやさしい活動をしていて、

たくさんの環境にいい未来が実現している。

そんな未来を目指して、この将来像が生まれました。



「小さく 楽しく あたりまえ」には、  
次のような意味も込められています。

## 「小さく」

- 大きなことをするには勇気や決断が必要だけど、小さなことなら、一人でも仲間とでもすぐに取り組める。
- 予測不可能な時代だからこそ、顔が見える関係、声をかけられる距離の小さな圏域がより重要になる。
- 小さい地域の中にはたくさんの知恵や工夫、経験が詰まっている。先の見えない未来でも頼りになるものを持ち続けられる地域でありたい。

## 「楽しく」

- 一人で取り組むより、みんなで取り組むほうが心強く、楽しい。
- 環境や自分の未来のことを考え、暮らしを楽しむ人を増やしたい。
- 厳しい状況の中でこそ生まれる創意工夫や創造性を楽しむ環境をつくりたい。

## 「あたりまえ」

- きれいな水と空気、美しい自然、美味しい食べ物、心温まる人とのつながり。私たちにとってあたりまえの高畠町を未来にもつないでいきたい。
- 自然の恵みも豊かな環境もこれまでであるからといって、これからもあるとは限らない。あたりまえだからこそ大事にしたい。
- 環境や自分の未来のためのあたりまえの選択・行動が、これからも増えてほしい。

# 03 将来像を実現するための 行動方針

1. 今あるものを活かし、大切にする（環境づくり）
2. 学び、つながり、行動する（人づくり）

高島町の環境の未来を議論する中で、将来像の実現に向けてどんなアクションをしていくか意見を話し合いました。出てきた意見を整理していくと、2つの方向性が見えてきました。

それは、「循環のしくみをつくる」と「人を育てる」こと。

「高島町をとりまく課題と希望」でも示した通り、環境に気を配らない暮らしがどんなことを招くかはわかってきています。また環境に配慮した暮らしを楽しむ人たちが増えてきていて、大量生産、大量消費よりも、今あるものを活かして大切にしたいと考える人が多いこともわかりました。

近年、提唱されているサーキュラー・エコノミー\*などを取り入れ、地域にある豊かな資源や、排出されるごみやCO2、そして経済も含めて循環させるしくみをつくることで、環境に配慮して自然と共生していける持続可能な高島町をつくっていかねばなりません。

そのためには、高島町に暮らす一人ひとりが対話しながら自分の生き方を考え、学び、つながり、ともに行動していくことが必要です。ヒアリング調査やエコカフェでは、多くの人が「こんなことを話す機会はなかったけれど自分の考えの方向性がわかった」など対話することで気づく人も多くいました。

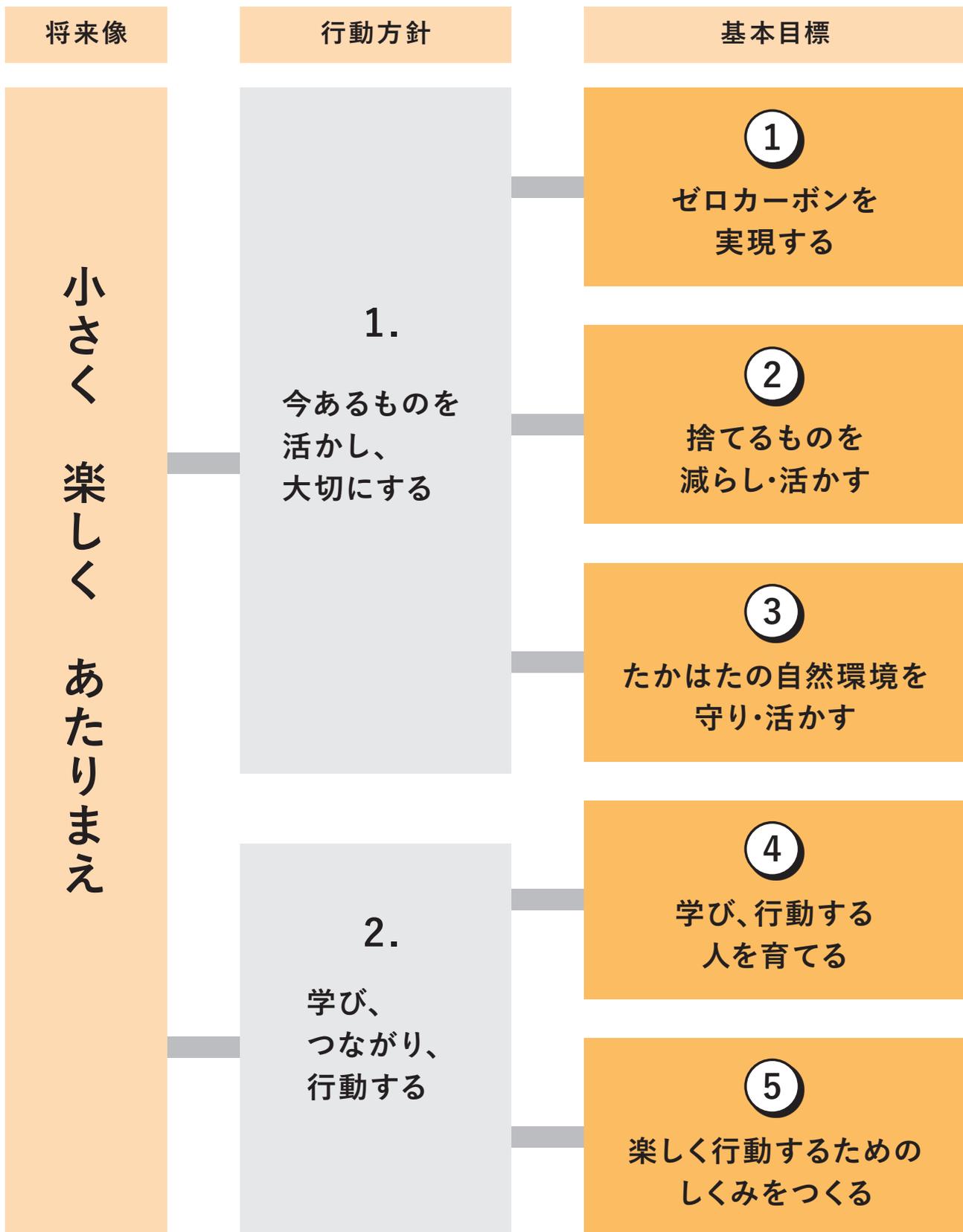
多くの人がこのような行動をしていけたら、将来像もすぐに実現できそうです。

私たちが持続可能な未来を実現できるよう、「今あるものを活かし、大切にする（環境づくり）」と「学び、つながり、行動する（人づくり）」の二つ柱を行動方針として設定します。

# 第3章

高畠町の環境の未来を  
実現するために

# 01 計画の体系



将来像を実現するため、行動方針に合わせて5つの基本目標を設定し、具体的な取り組みを推進していきます。

## 施策（具体的な取り組み）

1. 省エネルギー化の推進
2. 環境負荷の少ないまち・交通体系の構築推進
3. 再生可能エネルギーの導入推進
4. エネルギーの地産地消・循環のしくみづくり

1. ごみの発生抑制の推進
2. 食品ロス削減の推進
3. プラスチックごみ対策
4. モノを活かすしくみづくり

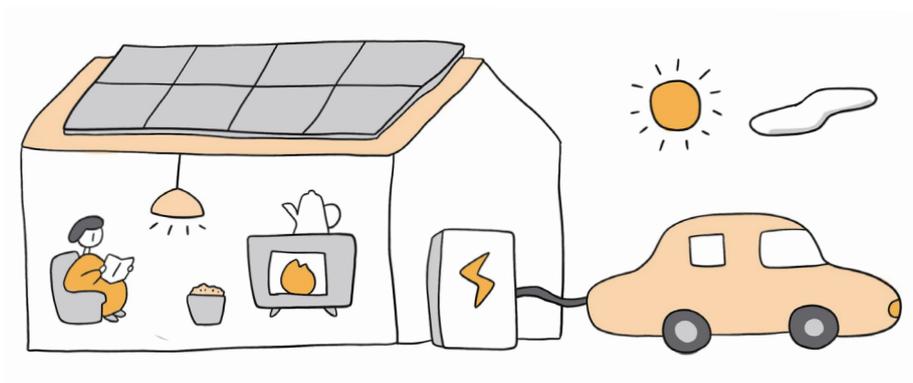
1. 農地を守り、活かす
2. 森林環境を循環させる
3. 安全な水環境をつくる
4. 生物多様性保全の推進

1. 楽しみながら学べる場や機会をつくる
2. 人材がつながり、活躍する場をつくる

1. 環境活動が広がるしくみづくり
2. 環境情報の積極的な発信
3. 環境に配慮したライフスタイルの拡大

# 02 具体的な取組み

## ① ゼロカーボンを実現する



### 10年後の高島町では…

太陽光などの再生可能エネルギー\*を使って電気や熱をつくり、それらを町内で使用しています。また、森林資源を燃料として活用し、供給するしくみも整い始めています。このような取組みにより、温室効果ガス\*排出量の削減だけでなく、エネルギーの安定供給にもつながっています。

また、住宅や建築物は、省エネ性能の高いZEH・ZEB\*で建てられ、既存の住宅では省エネ改修が増えています。家電や設備も省エネ化が進み、快適で省エネな生活を送る人が増えています。

数値目標	現状 2021年度 (令和3年度)	中間目標 2027年度 (令和9年度)	最終目標 2030年度 (令和12年度)
温室効果ガス排出量 (指標)	139,000 t (2019年度)	115,500 t (2025年度)	103,500 t (2028年度)
補助金による太陽光発電の導入容量 (町補助金創設時からの累計)	527.6 kW	780 kW	1,000 kW
補助金による木質バイオマスストーブの 導入件数(町補助金創設時からの累計)	133件	180件	210件
公共施設における太陽光発電の導入容量 (累計)	205.4 kW	300 kW	380 kW

## 施策1 省エネルギー化の推進

- 新築の住宅及び建築物の省エネルギー化を推進します。
- 既存の住宅及び建築物の高い省エネルギー性能への改修を推進します。
- 家電や設備の省エネルギー化を推進します。
- 脱炭素社会づくりに貢献する「製品への買い替え」・「サービスの利用」・「ライフスタイルの選択」などの「賢い選択」を促す「COOL CHOICE\*」を推進します。

## 施策2 環境負荷の少ないまち・交通体系の構築推進

- 再生可能エネルギー電力への切り替えを推進します。
- 公共交通の利用促進や自転車・徒歩への転換を促進します。
- 次世代自動車の導入及び充電インフラ等の整備・拡充を図ります。
- エコドライブを推進します。

## 施策3 再生可能エネルギーの導入推進

- 再生可能エネルギーの積極的な導入を推進します。
- 再生可能エネルギーの導入促進区域の検討を行います。

## 施策4 エネルギーの地産地消・循環のしくみづくり

- 地域内の再生可能エネルギーを利用した地産地消を推進します。
- 森林資源を活用した再生可能エネルギー（熱利用）の導入を推進します。

## ② 捨てるものを減らし・活かす



### 10年後の高島町では…

Refuse「リフューズ」：断ること、Reduce「リデュース」：ごみの発生、資源の消費をもとから減らすこと、Reuse「リユース」：くり返し使うこと、Recycle「リサイクル」：資源として再び利用することの「4R」があたりまえに行われていて、ごみの排出量が減っています。

また、捨てられるはずのものが、次に必要とする人に渡るしくみができていて、新たな付加価値を持たせて再利用するアップサイクル\*を行う人たちも増えています。

数値目標 (指標)	現状	中間目標	最終目標
	2021年度 (令和3年度)	2027年度 (令和9年度)	2030年度 (令和12年度)
1人1日当たりのゴミの排出量	719g	704g	695g
再資源化(リサイクル)率	13.6%	14.6%	15.2%
環境に配慮した製品を作っている企業数 (景況調査時などにアンケート実施)	-	5	10

## 施策1 ごみの発生抑制の推進

- ・ 4Rを意識し、資源の循環を推進します。
- ・ ごみの減量につながる販売・購入スタイルの普及を図ります。
- ・ わかりやすい分別方法の周知を図り、資源の有効利用を図ります。
- ・ 生ごみ回収事業を行い、生ごみの堆肥化などコンポスト\*しやすい環境をつくります。
- ・ 小型家電の回収、再資源化を行います。
- ・ 集団資源回収を行う自治会を支援します。
- ・ 産業廃棄物や農業副産物の再資源化を推進します。
- ・ 農産物を廃棄しない取組みや商品化などを支援します。
- ・ 農業廃棄物を使ったバイオマスプラントなど、循環型農業への取組みを支援します。

## 施策2 食品ロス削減の推進

- ・ 食品ロス\*に関する啓発やフードバンク\*の周知などを行います。
- ・ スーパーや飲食店等へ食品ロス削減の啓発を行います。
- ・ 食べ残しを減らす3010運動\*などの普及啓発を図ります。
- ・ 食品ロスにならない取組みの立ち上げを支援します。

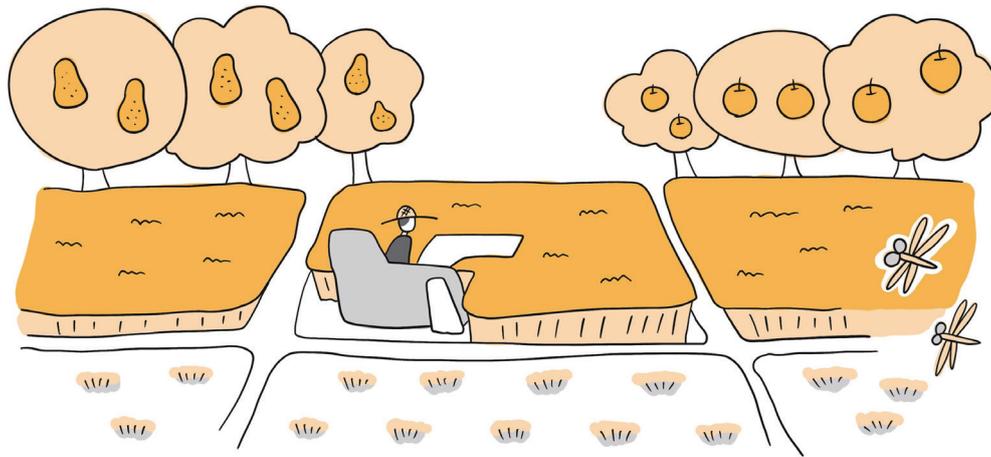
## 施策3 プラスチックごみ対策

- ・ 製品プラスチックの回収を含めた、新たな分別方法等について検討を進めます。
- ・ 広報やホームページ、SNS等を活用した、プラスチックごみ削減のための普及啓発に取組みます。
- ・ 海洋ごみ・河川ごみの発生抑制に向けた環境保全啓発活動を推進します。
- ・ バイオプラスチック\*の導入を推進します。

## 施策4 モノを活かすしくみづくり

- ・ フリーマーケットやバザー、チャリティショップ\*など、使わなくなったものを使う人へ循環するしくみを広げます。
- ・ 廃棄物や不用品に新たな価値を与えて再生するアップサイクル\*の取組みを支援します。
- ・ アップサイクル製品や環境に配慮した取組みを行う企業などと連携し、循環経済（サーキュラーエコノミー）への移行を図ります。

### 3 たかはたの自然環境を守り・活かす



#### 10年後の高島町では…

高島町ならではの農業に魅力を感じた新規就農者も増え、ぶどうやりんご、ラ・フランスなどの果樹やお米が栽培され、生き物にも環境にも安全安心な農地が広がっています。

適切に管理される森林が増え、温室効果ガスの吸収等、森林の多面的機能が発揮されています。また、薪ストーブの薪やバイオマス発電等に町産木材が活用されるなど、エネルギー源にもなっています。手入れされた森林は、四季折々の風景を楽しませてくれています。

防護柵が適切に整備され、野生動物との棲み分けができています。ゲンジ螢やカジカ蛙といった希少種や在来種などのさまざまな生き物が生き活きと暮らしています。

町民が一体となった美化活動によって手入れされた河川やため池等は、身近な自然や生き物とのふれあいや景観を眺める町民の憩いの場となっています。まちなかはもちろん、山間部のポイ捨てや不法投棄も減少しています。

数値目標 (指標)	現状 2021年度 (令和3年度)	中間目標 2027年度 (令和9年度)	最終目標 2030年度 (令和12年度)
	遊休農地面積	130 ha	125 ha
河川清掃活動参加者数	6,300人	6,300人	6,300人

## 施策1 農地を守り、活かす

- ・町産農産物の地産地消を推進します。
- ・農薬や化学肥料をできるだけ使用しない環境保全型農業を推進します。
- ・全国に先駆けて取り組まれてきた伝統ある有機農業の技術や栽培方法を継承し、次世代につなぐ取組みを推進します。
- ・新たに農の担い手となる人材、後継者確保のための施策等を行い、農地の保全・活用に取組みます。
- ・農地の保全に取組み、農業・農村が有する多面的機能を維持します。
- ・関係機関と連携し有害鳥獣対策を推進します。

## 施策2 森林環境を循環させる

- ・木材の地産地消を推進します。
- ・適正な森林整備により温室効果ガスの吸収を図ります。
- ・町産の木材需要が高まる取組みを実施し、森林整備につなげます。
- ・木や自然とふれあうことのできる機会を増やし、森林が果たしている役割の理解を広げます。
- ・自然環境を保育や教育の現場として活用することを支援します。
- ・循環型の森林づくりの取組みを支援します。

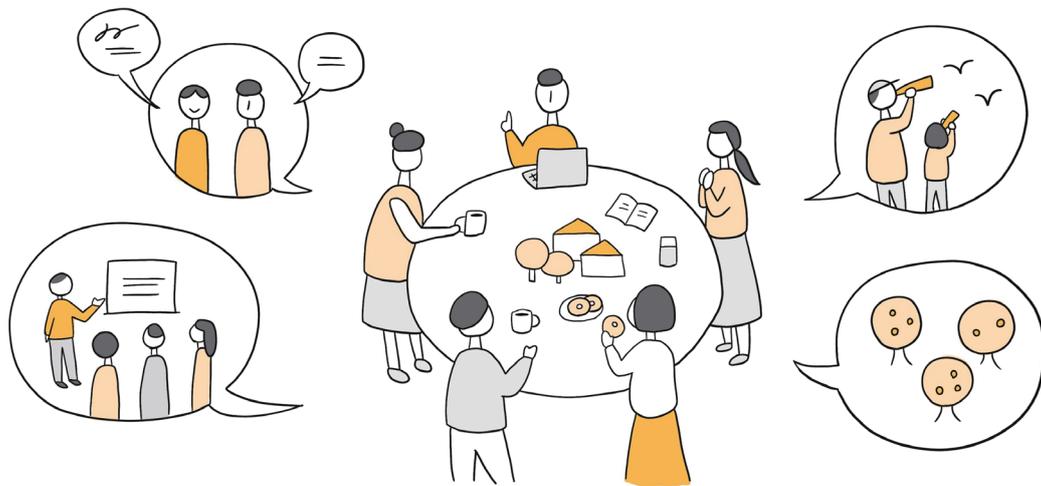
## 施策3 安全な水環境をつくる

- ・河川機能の維持と能力向上を図るため、住民との共同による河川清掃活動を実施します。
- ・定期的な水質検査を行い、水環境の監視を行います。
- ・水環境について理解を深めるため、河川の水質調査や水生生物調査などの環境学習を推進します。

## 施策4 生物多様性保全の推進

- ・自然とふれあうことのできる場や学びの機会の提供を推進し、生きものへの理解を促進します。
- ・希少な野生生物の適正な保護に努めます。
- ・外来種に関する正しい知識の普及啓発と生態系への影響防止に努めます。

## ④ 学び、行動する人を育てる



### 10年後の高島町では…

学びたい時に学べる場や機会がたくさんあり、子どもから大人まで、自ら学ぼうとする意欲が促進され、環境に対する関心や知識が高まっています。

環境問題を解決するために、先人から受け継いできた伝統や文化など、昔からあたりまえにあった地域資源や生活の知恵からの学びを大切にしています。

環境に関心のある若い人材が育ち、様々な年代の人たちとつながり、楽しみながら行動し、活躍しています。

数値目標 (指標)	現状	中間目標	最終目標
	2021年度 (令和3年度)	2027年度 (令和9年度)	2030年度 (令和12年度)
みんなでエコな未来をつくるカフェ (エコカフェ)の参加者数(累計)	-	600人	1,100人
あらゆる世代を対象とした環境教育活動 の実施回数	11回	14回	16回
各地区における環境保全に関する活動の 回数	15回	18回	20回

## 施策1 楽しみながら学べる場や機会をつくる

- ・誰でも好きな時に気軽に環境に関することを学ぶことができる場や機会をつくれます。
- ・町民や事業者と協力し、楽しみながら参加できる環境活動やイベントを実施します。
- ・環境の大切さを子どもたちに伝えるため、持続可能な開発目標（SDGs）や持続可能な社会の創り手を育む教育（ESD\*）の視点を取り入れた環境教育を推進します。
- ・各地区の公民館で、地域の特色を活かした環境に関する講座を開催します。
- ・楽しく家庭生活で実践できる身近な環境学習を推進します。
- ・身近な地域の自然や文化とふれあえる環境教育を推進します。

## 施策2 人材がつながり、活躍する場をつくる

- ・環境に関心を持つ人たちが参加してつながる環境活動のプラットフォームをつくれます。
- ・環境活動を実践する人の情報交換とネットワークづくりを支援します。
- ・多様な担い手が協働で行う環境保全活動を支援します。
- ・環境問題に取り組む団体や企業が行う環境対策事業を支援します。

## 5 楽しく行動するためのしくみをつくる



### 10年後の高畠町では…

町民が環境に対する活動に楽しく・気軽に参加できる仕組みができています。

様々な立場の人たちが対話できる場があり、お互いのノウハウを共有してパートナーシップを構築しています。

あらゆる世代が無理なく環境に配慮した暮らしがしやすくなっています。

数値目標 (指標)	現状 2021年度 (令和3年度)	中間目標 2027年度 (令和9年度)	最終目標 2030年度 (令和12年度)
COOL CHOICE賛同者・企業数(累計)	1,052人 43団体	1,500人 70団体	1,800人 100団体
町からの環境に関する情報発信の回数 (SNS, ICT等)	20回	25回	30回
町民、企業、行政が連携して実施した 環境保全に関する活動の実施回数	5回	8回	10回

## 施策1 環境活動が広がるしくみづくり

- ・ AAR サイクル\* を活用しながらプロジェクトを実施し、環境活動を広げるしくみをつくります。
- ・ 企業へ協力を呼びかけ、やればやるほど環境が良くなり、経済が循環するしくみを一緒に検討します。
- ・ エコポイントなど、暮らしの中で自然と環境に配慮した選択ができる制度を検討します。

## 施策2 環境情報の積極的な発信

- ・ 町民が「楽しく・手軽に」継続して取り組める活動に関する情報をいつでも必要な時に得られるよう、様々な手段を活用し、効果的でわかりやすい情報発信を行います。
- ・ 高畠町の豊かな自然環境・歴史・文化・特産物など魅力ある地域資源の情報を発信します。
- ・ 家庭でできる温暖化対策（エコライフ\*）の普及、啓発を行います。

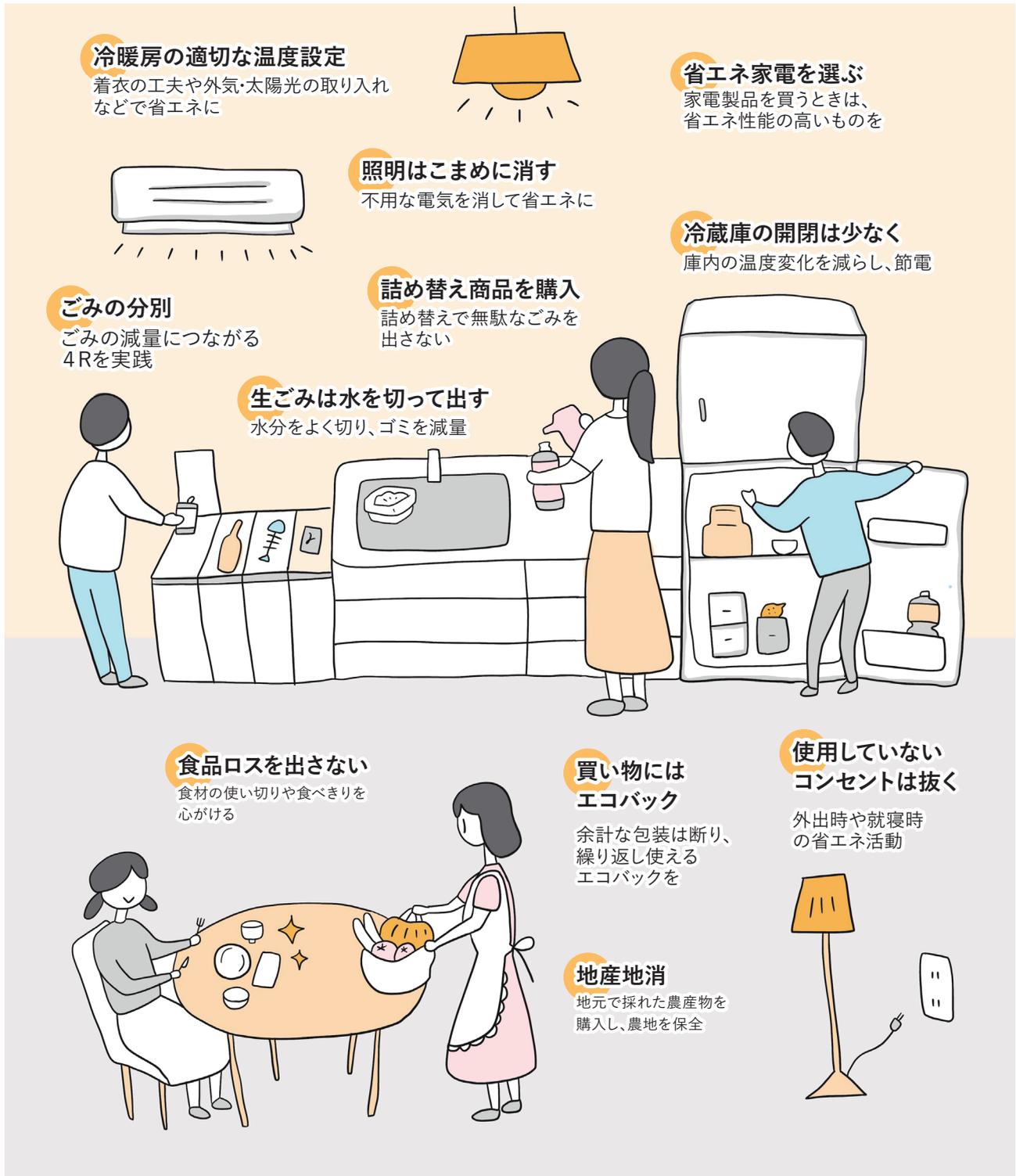
## 施策3 環境に配慮したライフスタイルの拡大

- ・ 町民の自発的な環境行動をそっと後押しするナッジ\* 手法などを活用し、無理なくより良いライフスタイルを選択できるよう働きかけます。
- ・ 生活の中で楽しく環境を意識した行動ができるよう、COOL CHOICE（クールチョイス=賢い選択）や環境に配慮した消費行動（エシカル消費\*）など環境配慮型のライフスタイルを提案します。

# 03 町民・事業者が取り組めること

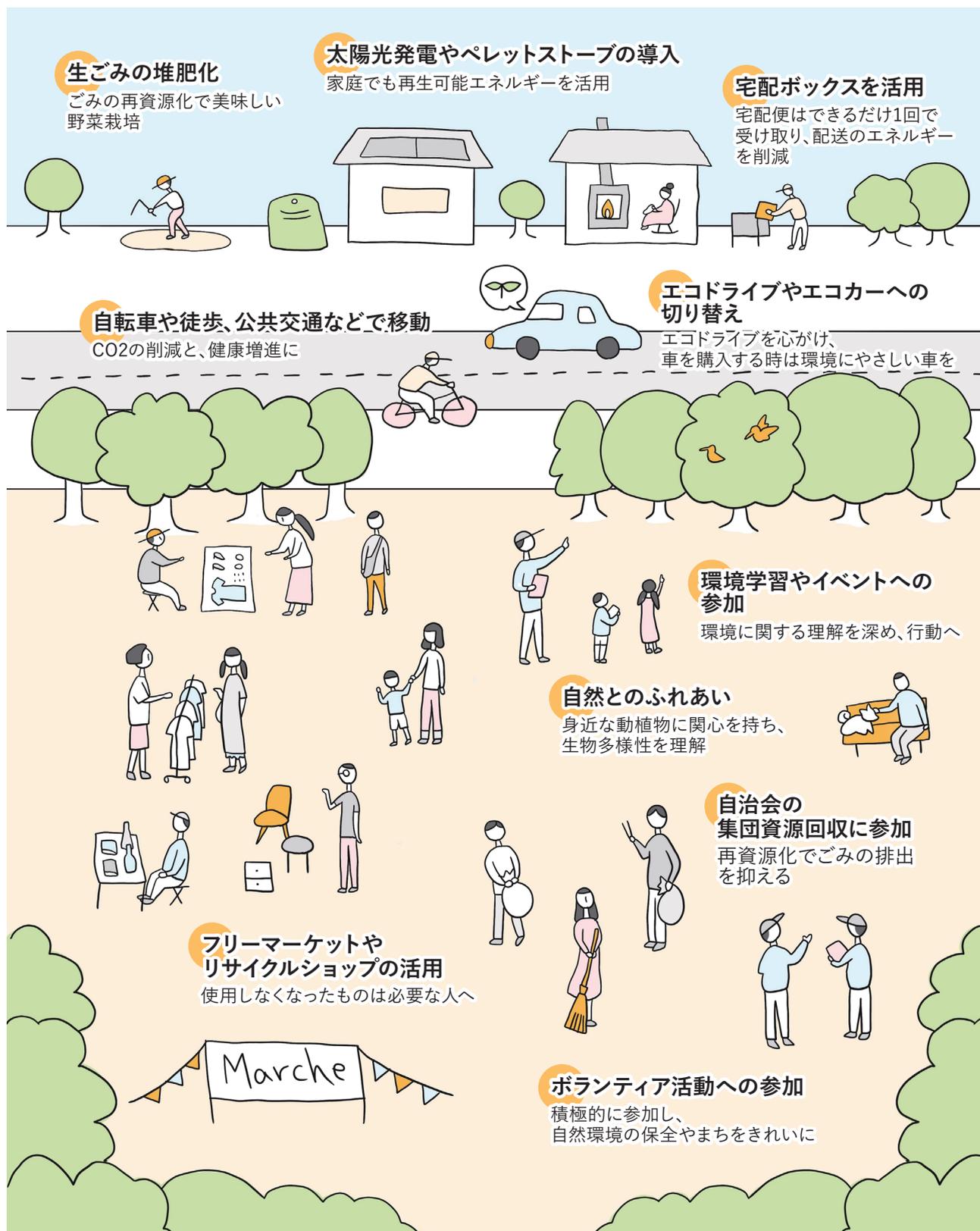
## ① 町民のみなさんができること

室内でできること…



高島町の未来を実現するには、行政、住民、事業者や団体など、町に暮らす全員が日々の生活の中で「小さく楽しくあたりまえ」に環境に配慮した暮らしを送ることが近道です。ここでは、私たち一人ひとりが主に町民と事業者の視点から取り組めることを紹介します。

### 野外でできること…

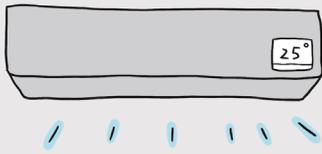


## ② 事業者のみなさんができること

室内でできること…

### 省エネ機器を選ぶ

更新・購入の際は、省エネ性能の高い設備や機器を導入



### 照明のこまめな消灯と間引き

窓側など無くて困らない灯りは消して省エネに



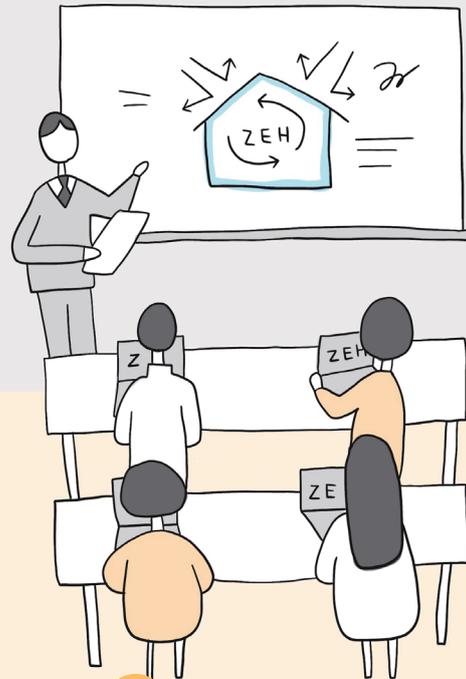
### 冷暖房の適切な温度設定

着衣の工夫や外気・太陽光の取り入れなどで省エネに



### 環境学習会の実施

従業員が環境に意識を向ける学習の機会を



### 環境マネジメントシステムの導入

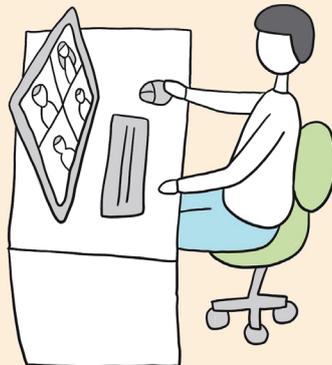
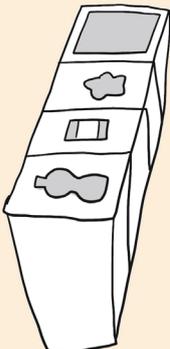
環境に配慮した事業経営を

### 裏紙の利用

再資源化でごみの排出を抑える

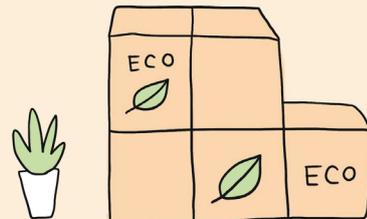
### ごみの分別

事業活動から出る廃棄物の発生を抑制



### ペーパーレス化

紙を減らして森林保護対策に貢献



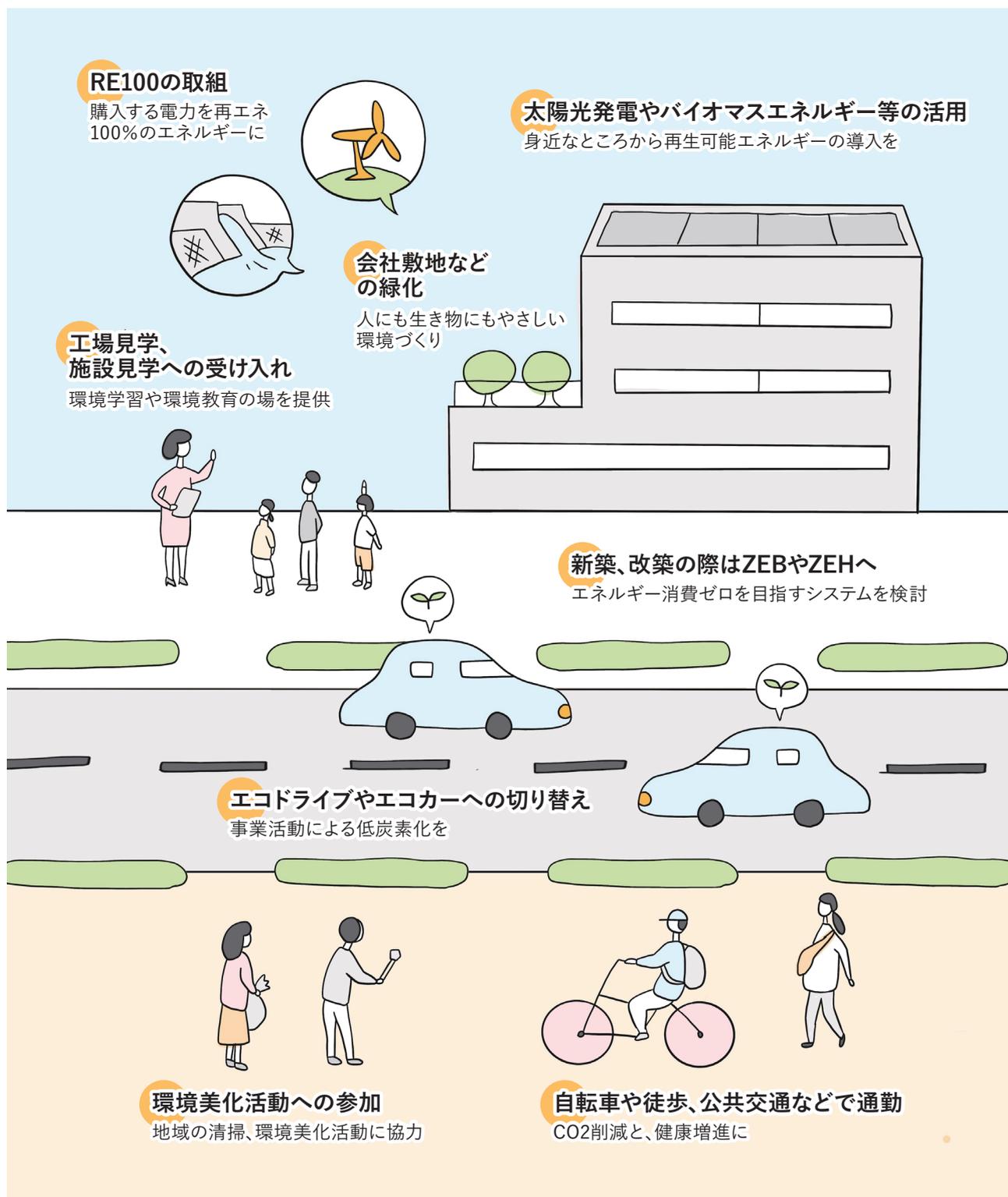
### テレワークの導入

会議もオンラインで行い、環境負荷を低減

### 環境に配慮した商品の購入

エコマークなどの環境ラベルを参考に

## 野外でできること…



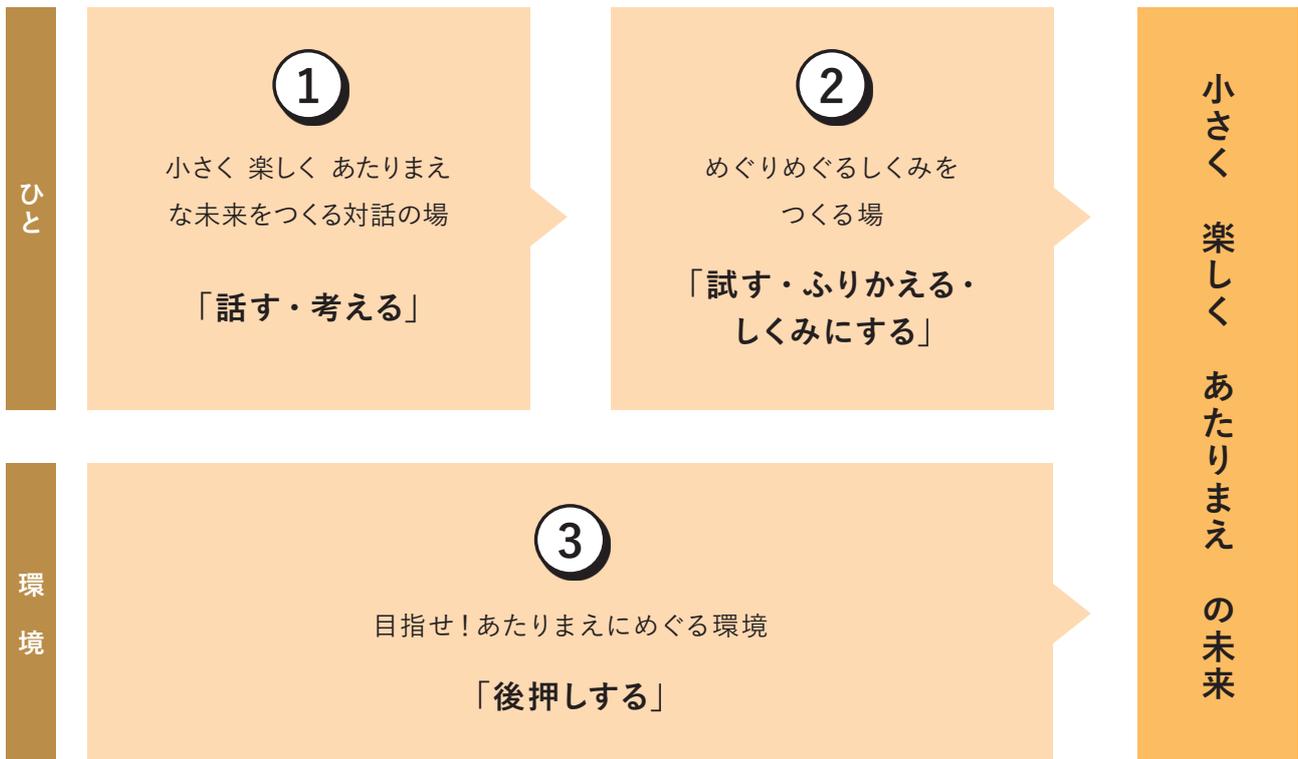
こんなことも環境保全につながります

- ・製品やサービスを提供する際の温室効果ガス排出量を削減
- ・過剰な包装を抑制し、ごみを減量
- ・食品ロスをできるだけ少なくする生産・流通システムや販売の実施
- ・製品のアップサイクルや、使用後にリユースやリサイクルがしやすくなる環境配慮設計を検討

# 04 計画を実現するための進め方

遠いと思っている未来を、より近くに、より良いものにするために、計画を実行に移す必要があります。実行には、行政だけではなく、町民、各種団体、企業、学校など、高畠町に暮らすみんなと取り組むことが欠かせません。

そこで、計画を実行するために以下のような進め方を行います。



ポイントは、高畠町に暮らす「ひと」と「環境」の両側面から進めていくこと。

ひとに関しては、「話す・考える」機会を増やすために①小さく楽しくあたりまえな未来をつくる対話の場と、「試す・ふりかえる・しくみにする」ために②めぐりめぐるしくみをつくる場を用意します。

環境に関しては、環境に配慮した活動や事業などを「後押しする」ために③「目指せ!あたりまえにめぐる環境」づくりを進めます。

未来を実現する人を増やすには、活動しやすい環境があることが必須です。活動しやすい環境があれば、知らず知らずに行動している人もいるかもしれません。両方を同時に進めていくことで、小さく楽しくあたりまえの未来を、暮らす人みんなでつくっていきます。

# ① 小さく楽しくあたりまえな未来をつくる 対話の場「話す・考える」

この計画をつくる時、町民のみなさんに集ってもらい、未来について対話を重ねました。計画を実行するときも対話の場は欠かせません。

対話の場では、単に話し合うだけでなく、時には先進事例をみんなで見に行き勉強したり、お互いがやっている工夫や知恵を共有したりして、自分の知識をアップデートしながらより良い未来を考えていきます。

また、対話することで自分の考えが整理されていくこともあります。ここでは、環境や自分の未来について「話す・考える」ことを進めます。

## <概要>

- ・定期的に集い、環境や自分たちの現状や未来について話し合う。
- ・先進事例の情報を収集したり、実際に見学したり、講師に招いたりして学ぶ。
- ・考えたことを試す準備をする。

## <対象者>

- ・町民、市民活動団体、生徒・学生、企業、農家、商店街、行政

## <目標>

- ・環境や自分が暮らすまちに関心を持つ人を増やす
- ・環境や自分が暮らすまちについて、話し合う機会を増やす
- ・新しい発見や学び、楽しいイベントなどを知る機会を増やす

## <具体的な取組み>

- ・環境や自分たちの現状や未来について話し合うワークショップ（エコカフェ）の継続開催
- ・環境に関する情報発信や交流拠点となるプラットフォームの開設
- ・先進事例の情報収集や研修機会の創出

## ② めぐりめぐるしくみをつくる場づくり 「試す・ふりかえる・しくみにする」

対話を重ねると、やってみたいことが生まれてきます。

その実験の場として、「めぐりめぐるしくみをつくる場」で試してみます。試したことは想定のとおりにできたか、足りないことはないか、改善点はないか、次にやるとするならどうしたらいいか、町民全体に広めるには…とやったことをふりかえます。試すとふりかえりはセットで繰り返していきます。

「めぐりめぐる」にはやってみることとふりかえることをめぐるという意味と、捨てることがない資源の使い方や、できる限り長く資源を使う方法など資源を循環するという2つの意味があります。ここでは、環境や自分の未来について「試す・ふりかえる・しくみにする」ことを進めます。

### <概要>

- ・やってみたいことをもちより、実験する
- ・実験したことをふりかえる
- ・しくみとして整理し、広めていく

### <対象者>

- ・町民、市民活動団体、生徒・学生、企業、農家、商店街、行政

### <目標>

- ・チャレンジやスタートアップに取組みたい人を増やす
- ・チャレンジやスタートアップに取組みやすい機会を増やす
- ・新しいことやチャレンジを応援する人を増やす

### <具体的な取組み>

- ・AAR サイクルを活用した循環のしくみを実践するプロジェクトの実施
- ・町民等へのわかりやすい情報発信

## ③ 目指せ！あたりまえにめぐる環境 「後押しする」

関心をもって活動する人が増えるために、活動しやすい土壌をつくります。

高畠町ではエネルギーや資源があたりまえにめぐり（循環し）、自然と共生できる持続可能な未来を実現するための制度を考えて、多くの人に取り入れてもらおうと考えます。

ここでは環境や自分の未来を実現することについて「後押しする」ことを進めます。

### <概要>

- ・ゼロカーボンや循環・共生のまちをつくるための取組みやすい制度を検討する。
- ・整備した再エネ、省エネ、地産地消・循環などの制度を広める。

### <対象者>

- ・町民、市民活動団体、生徒・学生、企業、農家、商店街、行政

### <目標>

- ・地域の自然を守り活かす
- ・CO<sub>2</sub>の排出をできるかぎり抑える
- ・エネルギーの自給率を上げる
- ・災害時のエネルギーを確保する
- ・サーキュラー・エコノミーが実現する

### <具体的な取組み>

- ・自然を守り、活かすしくみの検討
- ・ゼロカーボン実現に向けた各種制度の検討
- ・サーキュラー・エコノミー実現に近づくしくみづくり
- ・災害レジリエンス\*を実現するエネルギーの確保
- ・「ナッジ」などを活用したより良い選択を後押しするためのしくみづくり
- ・各種制度のわかりやすい情報発信

# 第4章

## 計画の推進体制と 進行管理

# 01 推進体制

## ① パートナーシップによる推進体制

計画を実現するためには、行政だけではなく、町民、各種団体、企業、学校など、高畠町で活動する様々な人たちとのパートナーシップが重要です。町民、企業、民間団体等が参加する「環境にやさしいまちづくり会議」を設置し、各主体の活動状況の把握、意見・提言などのとりまとめを行い計画の推進を図ります。

また、町民ワークショップを継続的に開催し、そこに参画する多様な主体とのつながりを広げながら、「見通し」をたて、「行動」し、「ふりかえる」AARサイクルを活用し、参加者と対話しながら実践的に計画を推進していきます。

## ② 庁内の推進体制

行政が責任をもって本計画を推進していくため、庁内の推進体制を整えます。

庁内で組織する「環境にやさしいまちづくり推進会議」において、定期的な計画の進行状況の把握、施策の点検・調整などを行うとともに、施策の推進にあたっては関係課が横断的な連携を図りながら事業を推進していきます。

# 02 進行管理

「見通し」をたて、「行動」し、「ふりかえる」AARサイクルを活用して実践した内容は、毎年度、環境にやさしいまちづくり会議及び環境にやさしいまちづくり推進会議に報告します。また、取組み内容は定期的に町民に公表します。

# 参考資料

## 高島町環境基本計画策定に向けたアンケート調査（町民）

### 調査結果

#### 1. 調査目的

第3次高島町環境基本計画策定の基礎資料とするため、町民の環境に関する意向を把握することを目的としてアンケート調査を実施した。

#### 2. 調査概要

調査対象	満16歳以上の町民（無作為抽出）
対象者数	1,000人
回収数	455人
回収率	45.5%
調査方法	■郵送によるアンケートの配布・回収 ■Webアンケートシステムによる回答
実施期間	2022年3月1日～2022年3月22日

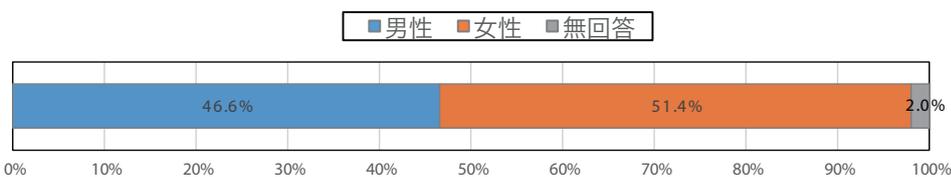
#### 3. 設問概要

- 回答者自身の属性（性別、年齢、居住地区）について
- 環境問題への関心について
- 高島町の環境について
- 日常生活における取組について
- 高島町の取組について

## 1. 回答される方について

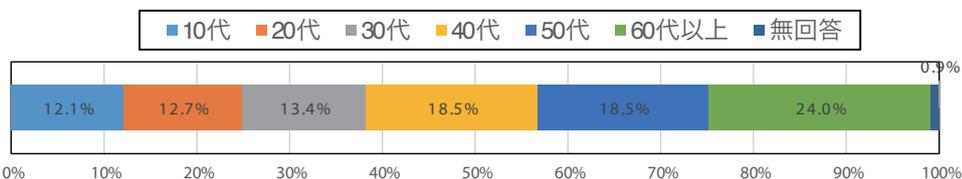
以下の各設問について、あてはまるもの1つを選び、丸をつけてください。

### ・性別



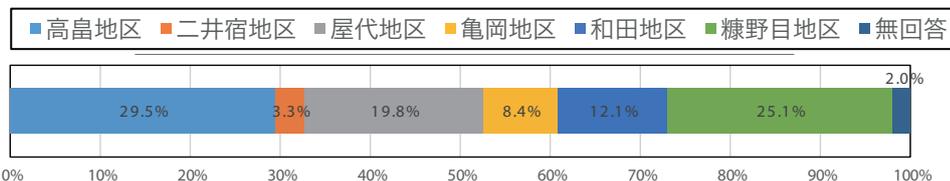
性別	人数
男性	212
女性	234
無回答	9
合計	455

### ・年齢



年齢	人数
10代	55
20代	58
30代	61
40代	84
50代	84
60代以上	109
無回答	4
合計	455

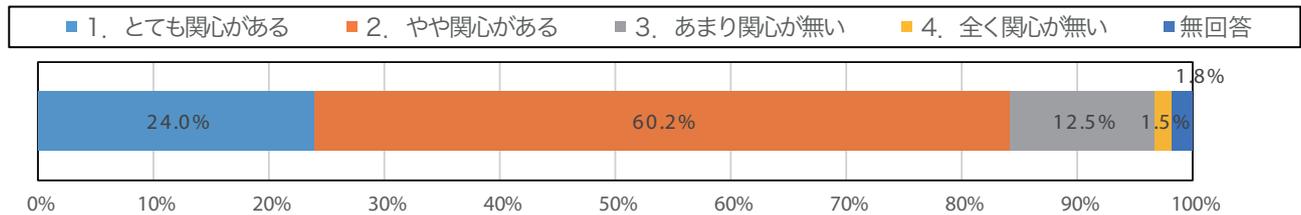
### ・お住まいの地域



お住まいの地域	人数
高島地区	134
二井宿地区	15
屋代地区	90
亀岡地区	38
和田地区	55
糠野目地区	114
無回答	9
合計	455

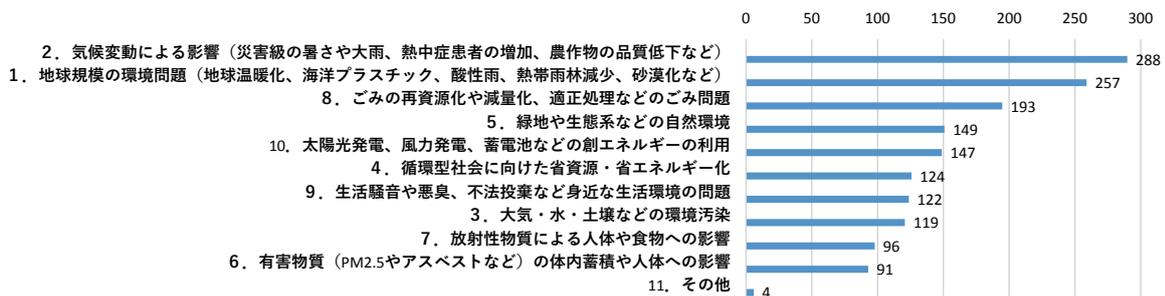
## 2. 環境問題への関心について

問1. あなたは環境問題にどの程度関心がありますか。あてはまるものを1つ選び、丸をつけてください。



内容	人数	割合
1. とても関心がある	109	24.0%
2. やや関心がある	274	60.2%
3. あまり関心がない	57	12.5%
4. 全く関心がない	7	1.5%
無回答	8	1.8%

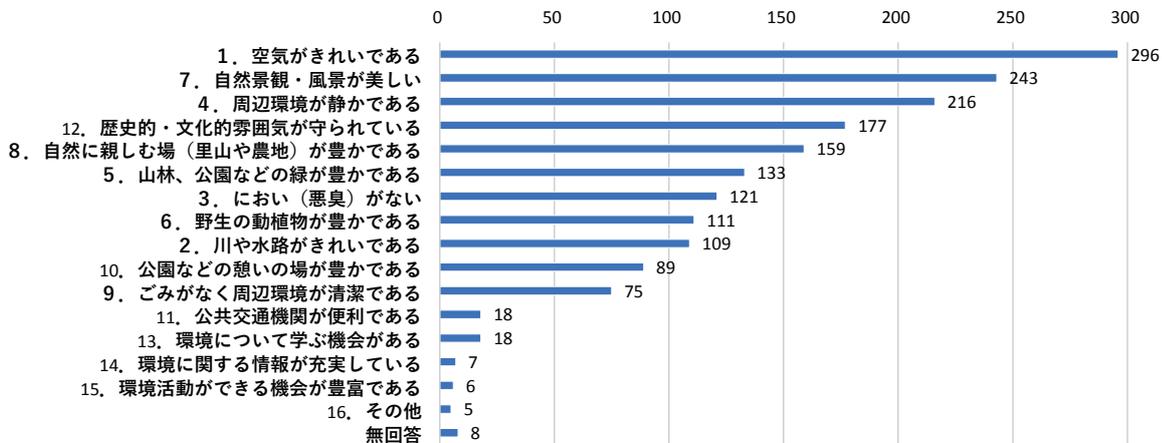
問2. 問1で「1. とても関心がある」「2. やや関心がある」を選んだ方におたずねします。あなたが特に関心のある環境問題は何ですか。あてはまるものすべてに丸をつけてください。



内容	回答数	割合
1. 地球規模の環境問題（地球温暖化、海洋プラスチック、酸性雨、熱帯雨林減少、砂漠化など）	257	15.5%
2. 気候変動による影響（災害級の暑さや大雨、熱中症患者の増加、農作物の品質低下など）	288	17.4%
3. 大気・水・土壌などの環境汚染	119	7.2%
4. 循環型社会に向けた省資源・省エネルギー化	124	7.5%
5. 緑地や生態系などの自然環境	149	9.0%
6. 有害物質（PM2.5やアスベストなど）の体内蓄積や人体への影響	91	5.5%
7. 放射性物質による人体や食物への影響	96	5.8%
8. ごみの再資源化や減量化、適正処理などのごみ問題	193	11.6%
9. 生活騒音や悪臭、不法投棄など身近な生活環境の問題	122	7.4%
10. 太陽光発電、風力発電、蓄電池などの創エネルギーの利用	147	8.9%
11. その他	4	0.2%
無回答	68	4.1%

### 3. 高島町の環境について

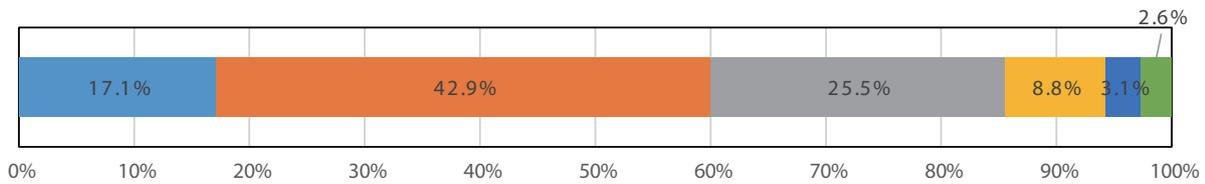
問3.あなたが高島町の環境で良いと感じるところはどこですか。あてはまるものすべてに丸をつけてください。



内容	回答数	割合
1. 空気がきれいである	296	16.5%
2. 川や水路がきれいである	109	6.1%
3. におい（悪臭）がない	121	6.8%
4. 周辺環境が静かである	216	12.1%
5. 山林、公園などの緑が豊かである	133	7.4%
6. 野生の動植物が豊かである	111	6.2%
7. 自然景観・風景が美しい	243	13.6%
8. 自然に親しむ場（里山や農地）が豊かである	159	8.9%
9. ごみがなく周辺環境が清潔である	75	4.2%
10. 公園などの憩いの場が豊かである	89	5.0%
11. 公共交通機関が便利である	18	1.0%
12. 歴史的・文化的雰囲気が守られている	177	9.9%
13. 環境について学ぶ機会がある	18	1.0%
14. 環境に関する情報が充実している	7	0.4%
15. 環境活動ができる機会が豊富である	6	0.3%
16.その他	5	0.3%
無回答	8	0.4%

問4. 高島町の環境に対して満足していますか。あてはまるものを1つ選び、丸をつけてください。

■ 1. 満足 ■ 2. 多少満足 ■ 3. どちらでもない ■ 4. 多少不満 ■ 5. 不満 ■ 無回答



内容	回答数	割合
1. 満足	78	17.1%
2. 多少満足	195	42.9%
3. どちらでもない	116	25.5%
4. 多少不満	40	8.8%
5. 不満	14	3.1%
無回答	12	2.6%

問5. どのような点に満足や不満を感じていますか。その理由をご記入ください。

「3. どちらでもない」を選択した方も理由をご記入ください。

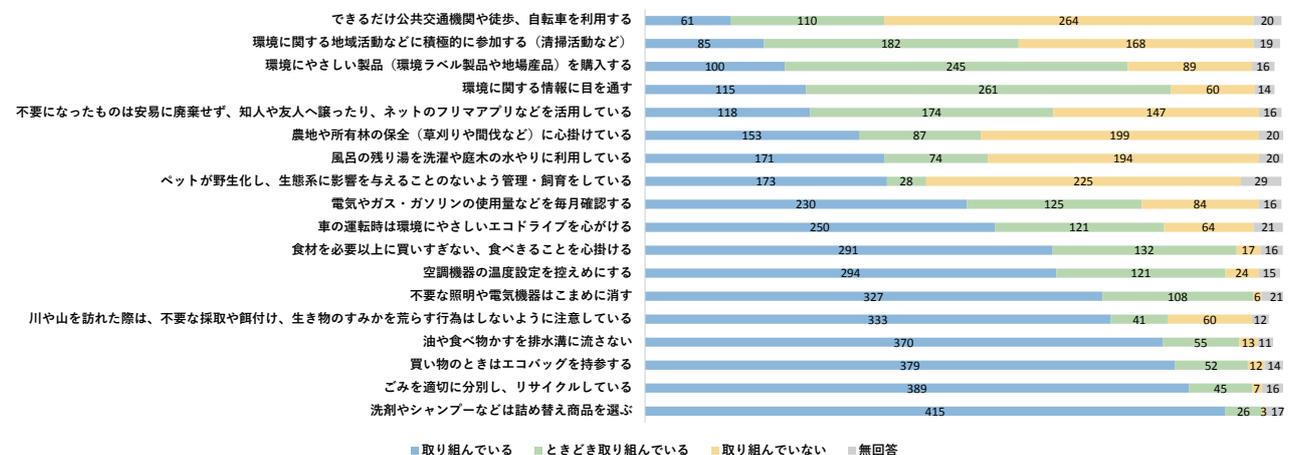
1. 満足を選択した方の意見 (抜粋)	2. 多少満足を選択した方の意見 (抜粋)	3. どちらでもないを選択した方の意見 (抜粋)
・周辺の環境が静かで住みやすい	・ごみの分別をきちんとされている点が良い	・感心がわからない
・四季折々で自然と文化遺産とふれあう機会	・ごみがなく、周辺環境が清潔なこと	・あまり考えた事がないので良く分からない
・子供たちがのびのびと育つ環境であること	・環境保全に取り組み、活動する人が多い	・環境に興味がわからないからわからない
4. 多少不満を選択した方の意見 (抜粋)	5. 不満を選択した方の主な意見 (抜粋)	
・町がごちゃごちゃしてきているように思う	・野生動物が家の周りに現れるようになった	
・ごみの分別がされていない時がある	・水路にゴミが多い。	
・地球規模の環境に対する対応	・悪臭	

問6. どあなたやあなたの家庭で普段から取り組んでいることはありますか。

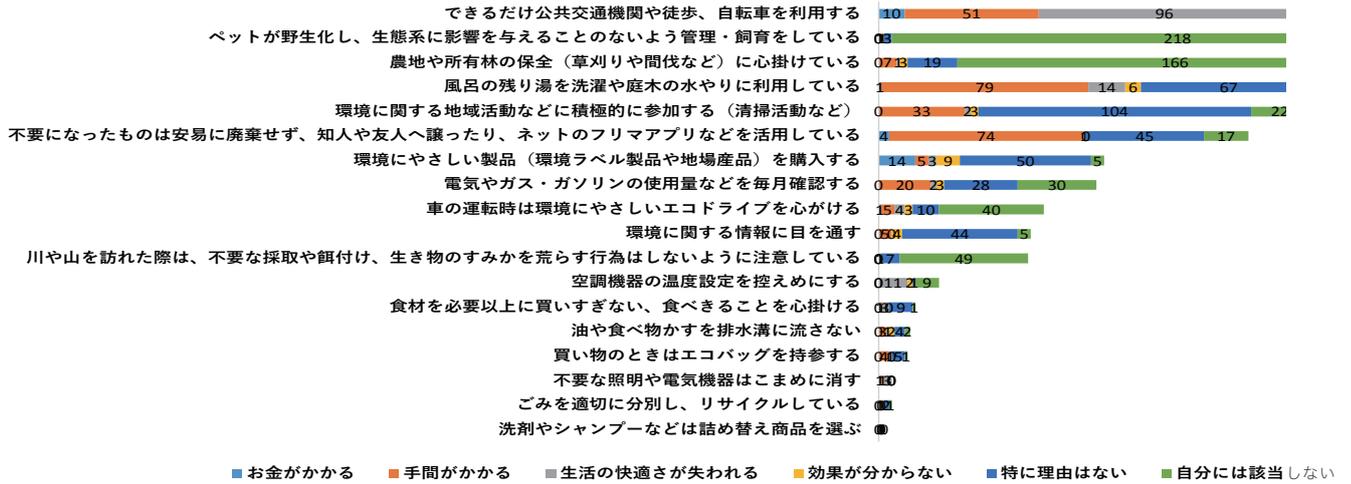
各項目についてあてはまるものを1つ選び、丸をつけてください。

「3. 取り組んでいない」を選択した方は、その理由を下の欄から1つ選び、

「取り組んでいない理由」に番号をご記入ください。



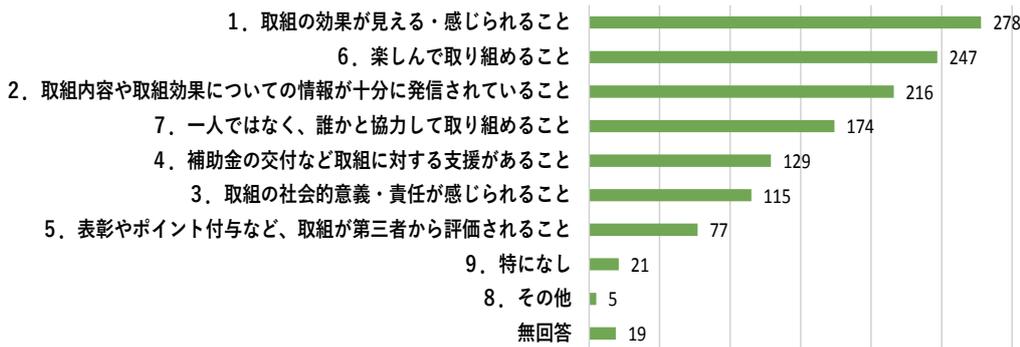
問6. 取り組んでいない理由



※「取り組んでいない理由」の回答数が問6の「取り組んでいない」の回答数と合わないのは無回答の方がいるため

問7. 環境に関する取組について、より積極的に取り組むために必要だと思うことはありますか。

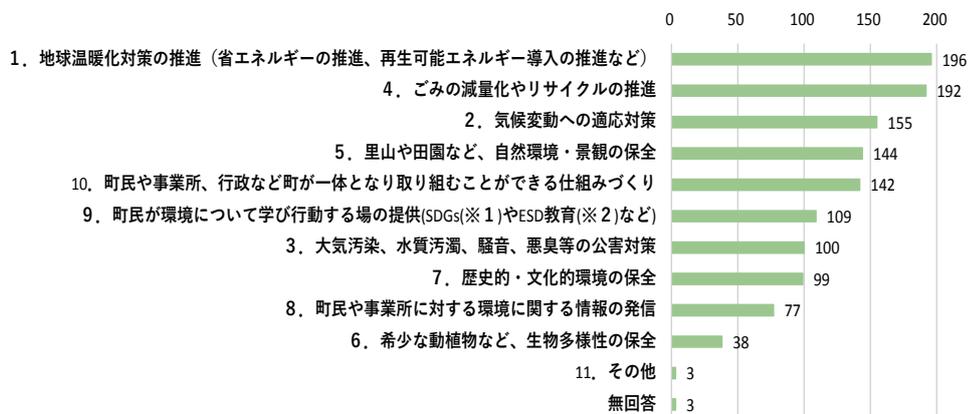
あてはまるものをすべて選び、丸をつけてください。



内容	回答数	割合
1. 取組の効果が見える・感じられること	278	21.7%
2. 取組内容や取組効果についての情報が十分に発信されていること	216	16.9%
3. 取組の社会的意義・責任が感じられること	115	9.0%
4. 補助金の交付など取組に対する支援があること	129	10.1%
5. 表彰やポイント付与など、取組が第三者から評価されること	77	6.0%
6. 楽しんで取り組めること	247	19.3%
7. 一人ではなく、誰かと協力して取り組めること	174	13.6%
8. その他	5	0.4%
9. 特になし	21	1.6%
無回答	19	1.5%

#### 4. 高島町の取組について

問8. 高島町では今後10年間、どのような環境施策に力を入れていくべきだと思いますか。特に重要だと思うもの3つまで選び、丸をつけてください。



内容	回答数	割合
1. 地球温暖化対策の推進 (省エネルギーの推進、再生可能エネルギー導入の推進など)	196	15.6%
2. 気候変動への適応対策	155	12.3%
3. 大気汚染、水質汚濁、騒音、悪臭等の公害対策	100	7.9%
4. ごみの減量化やリサイクルの推進	192	15.3%
5. 里山や田園など、自然環境・景観の保全	144	11.4%
6. 希少な動植物など、生物多様性の保全	38	3.0%
7. 歴史的・文化的環境の保全	99	7.9%
8. 町民や事業所に対する環境に関する情報の発信	77	6.1%
9. 町民が環境について学び行動する場の提供(SDGs(※1)やESD教育(※2)など)	109	8.7%
10. 町民や事業所、行政など町が一体となり取り組むことができる仕組みづくり	142	11.3%
11. その他	3	0.2%
無回答	3	0.2%

## 計画策定の体制及び経過

### 1) 計画策定の体制（敬称略）

#### 【高畠町環境にやさしいまちづくり会議委員】

No	氏名	所属等
1 会長	御田 伸一	高畠町環境アドバイザー
2 副会長	三浦 秀一	東北芸術工科大学 建築・環境デザイン学科教授
3	青野 良幸	(有)青野製材所 代表取締役
4	市川 穂波	自営業
5	金子 和徳	たかはた農とぴあ実行委員会 実行委員長
6	川井 秀智	章和ホーム(株) 代表取締役
7	後藤 隆暢	錦爛酒造(株) 代表取締役
8	近野 優浩	高畠町商工会 事務局長
9	佐藤 純子	山形県酪農業協同組合
10	田中 茜	AKAKANE ☆ YA 代表
11	長 智香子	(有)ちょうさん
12	戸田 聡	(有)高畠清掃 代表取締役
13	戸田 良一	高畠町環境衛生組合連合会副会長
14	戸屋 進	(株)オカムラ高畠事業所 製造部部长
15	中川 広幸	認可地縁団体二井宿愛林公益会 会計理事
16	西方 茂太	(有)西方燃料店 取締役社長 まごころ住設(株) 代表取締役

【環境部門】

No	氏名	所属等
1 部門長	御田 伸一	高島町環境アドバイザー
2	市川 穂波	自営業
3	後藤 隆暢	錦爛酒造(株) 代表取締役
4	佐藤 純子	山形県酪農業協同組合
5	田中 茜	AKAKANE ☆ YA 代表
6	長 智香子	(有)ちょうさん
7	戸田 良一	高島町環境衛生組合連合会副会長
8	中川 広幸	認可地縁団体二井宿愛林公益会 会計理事

【高島町環境基本計画策定部会】

- 基本目標1 大河原孝・安達敏幸・我妻和人・山口充・南波幸子  
 基本目標2 新藤真紀・加藤祐美・佐藤あすか・佐藤康介・後藤剛  
 基本目標3 竹田恭一・大浦宏幸・後藤理恵・岡崎桜・斎藤伊武輝  
 基本目標4, 5 鈴木洋之・佐々木育子・栗田桃子・山田康太・近野憲希

【事務局】

遠藤千夏子・佐々木晋・我妻美樹・鈴木雄紀・丸山和枝・星野貴洋・近野清正・滝春彦

2) 計画策定の経過

- |               |  |
|---------------|--|
| 令和4年3月        | アンケート調査実施  |
| 令和4年10月～      | 高島町環境にやさしいまちづくり推進会議（課長会）                             |
| 令和4年10月～      | 高島町環境基本計画策定部会  |
| 令和4年11月～      | 高島町環境にやさしいまちづくり会議計画原案策定<br>11月11日、12月20日、2月22日、3月23日 |
| 令和5年3月12日～21日 | パブリックコメント実施  |

# 索引

## 数字

### 3010 運動

宴会や会食で「最初の 30 分間と最後の 10 分間はお料理を楽しむことで食べ残しを減らしましょう」という運動

## 英字

### AAR サイクル



近年、多くの国では自分の身の回りのことを考えて行動する教育のあり方 AAR が導入されてきています。AAR とは、Anticipate, Act, Reflection の略で、それぞれ「予期する」「行動する」「ふりかえる」と訳されます。予期するとは、みんなワクワクすることを想像してにやにやする、という意味が込められています。にやにやしてしまうような楽しいことを実際に試してみるのが、行動する、です。実際に行動すると話し合っているだけではわからなかったことが見つかったり、新しい出会いや発見があったりします。そうしたことを時間をかけてふりかえます。このサイクルを繰り返していくことで、自分の意識や行動が変わっていき、ひいては町の未来や環境の変化につながっていきます

### COOL CHOICE

CO2 などの温室効果ガスの排出量削減のために、脱炭素社会づくりに貢献する「製品への買換え」、「サービスの利用」、「ライフスタイルの選択」など、日々の生活の中で、あらゆる「賢い選択」をしていこうという取組みのこと。クール・チョイス

### ESD

Education for Sustainable Development（持続可能な開発のための教育）の略で、持続可能な社会づくりの担い手を育む教育のこと

### ZEH・ZEB

ZEH（ゼッチ）は Net Zero Energy House（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）、ZEB（ゼブ）は Net Zero Energy Building（ネット・ゼロ・エネルギー・ビルディング）の略称で、どちらも快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを目指した建物のこと

## あ

### アップサイクル

本来は捨てられるはずの製品に新たな価値を与えて再生すること

### エコライフ

環境に配慮した暮らし方をすること

### エシカル消費

人や地球環境や社会に配慮した商品・サービスを選ぶことで、社会の課題解決を考えた消費活動を行うこと

### 温室効果ガス

大気圏にあって、地表から放射された赤外線の一部を吸収することにより、温室効果をもたらす気体の総称。二酸化炭素、メタンなどが該当する

## か

### グリーンリカバリー

新型コロナウイルス感染症の流行で停滞した世界経済を立て直す際に、脱炭素社会など環境問題への取組みも合わせて行おうとするアフターコロナの政策の一つ。せっかく経済復興のためにお金を使うのであれば、単にコロナ以前の姿を取り戻そうとするのではなく、気候変動への対応など持続可能な社会の実現のために予算を使おうという考え方

### コンポスト

家庭から出る野菜くずや生ごみ、落ち葉などの有機物を微生物の働きにより発酵・分解して堆肥を作ること

さ

## 災害レジリエンス

災害に対するコミュニティや社会が、その基本構造や機能の維持・回復を通じて、災害の影響を適時にかつ効果的に防護・吸収し、対応するとともに、しなやかに回復する能力

## 再生可能エネルギー

太陽光や水力、風力など一度利用しても比較的短期に再生が可能であり、資源が枯渇しないエネルギー

## サーキュラー・エコノミー

「大量生産→大量消費→大量廃棄」の一方通行の経済活動ではなく、製品と資源の価値を可能な限り長く保全・維持し、廃棄物の発生を最小化した経済の仕組みのこと。循環経済とも呼ばれる

## サブスク

サブスクリプションの略。定期的に料金を支払い利用するコンテンツやサービスのこと。商品を所有ではなく、一定期間利用するビジネスモデル

## 食品ロス

まだ食べられるのに廃棄される食品のこと。食べ物を捨てることはもったいないばかりでなく、地球環境にも悪い影響を与えてしまう

た

## 対話

お互いの立場や意見の違いを理解し、そのずれをすりあわせることを目的に行う話し合いのこと。何かしらのテーマに基づいて意見を述べ合う。今回の計画策定では、町民ワークショップ（エコカフェ）を開催し、将来像について話し合った

## チャリティショップ

様々なチャリティー団体によって運営される中古品の販売店。市民が寄付した不用品を安く販売し、その売り上げを各団体の慈善活動に充てる。イギリスで発祥した

な

## ナッジ

行動科学の知見から、望ましい行動をとれるよう人を後押しするアプローチのこと。多額の経済的インセンティブや罰則といった手段を用いるのではなく、人が意思決定する際の環境をデザインすることで、自発的な行動変容を促すのが特徴

は

## バイオプラスチック

植物などの再生可能な有機資源を原料とするバイオマスプラスチックと微生物等の働きで最終的に二酸化炭素と水にまで分解する生分解性プラスチックの総称

## フードバンク

賞味期限が近いなど、食品の品質には問題ないが、通常の販売が困難な食品・食材を企業等から寄付してもらい、必要としている団体や人に無償で提供する活動

### 第3次高畠町環境基本計画

2023（令和5）年度～2030（令和12）年度  
山形県高畠町 生活環境課

〒992-0392

山形県東置賜郡高畠町大字高畠436番地

TEL 0238-52-1215 FAX 0238-52-1543